

予防的支援推進とうきょうモデル事業

(地域特性に応じた予防的支援)

「ご近所さん事業」

事業実施報告書

令和6年4月

大 田 区

(社福)大田区社会福祉協議会

目次

1	事業概要	1
	(1) 事業の背景	
	(2) 事業目的	
	(3) 事業内容	
	(4) 対象者	
	(5) 周知方法	
	(6) 「ご近所さん」に係る募集方法・交流会(研修会)・特徴	
	(7) 実施体制	
	(8) 各特別出張所管内の状況	
2	利用者調査(アンケート)	6
	(1) 調査票	
	(2) 倫理的配慮	
	(3) 調査結果	
3	利用者調査(インタビュー)	20
4	「ご近所さん」調査(アンケート)	24
	(1) 調査票	
	(2) 倫理的配慮	
	(3) 調査結果	
5	利用者の孤立防止及び地域づくりへの有効性	32
	(1) 本事業における利用者の孤立防止等への有効性	
	(2) 本事業における地域づくりへの有効性	
6	利用者と地域住民(「ご近所さん」との関係構築	38
	(1) 関係構築の取組みと評価	
	(2) 事例からみる関係構築における課題	
	(3) 関係構築に有効な訪問頻度と時間	
	(4) 産前からの関係構築	
7	関係行政機関と社会福祉協議会との連携ルールの構築と評価	40
8	本事業の総括及び今後の事業構築の方向性	41

1 事業概要

(1) 事業の背景

近年、ひとり親家庭や親族が近くにいない等、地域の中で子育てに困難を抱える世帯が増えている。しかし、その姿は地域からは見えにくく、子育ての情報が届かないことで相談先がわからずに、行政や地域団体などの支援につながらない子育て家庭がある。

また、地域から孤立することで、地域の子どもや子育て家庭を見守る機会が減り、児童虐待など不適切な子どもの養育につながるおそれもある。子育て家庭が孤立することなく、地域の見守りや支えをあいの中で、安心して子育てできる地域づくりが求められている。

(2) 事業目的

予防的支援推進とうきょうモデル事業（地域特性に応じた予防的支援）（以下、「本事業」という。）として、児童虐待の未然防止の観点から、予防的支援の対象者との状況に応じた適切な関わり方、関係性構築の手法、関係諸機関との連携方法及び予防的支援指標を検討する。

同時に、地域ボランティア（以下、「ご近所さん」という。）の訪問活動として実施することにより、近隣住民がコミュニティ活動へ積極的に参加する文化を醸成するとともに、利用者の地域からの孤立を防止し、安心して子育てできる支えあいの地域づくりにつなげる。

また、大田区（以下、「区」という。）は2023年度の「SDGs未来都市」及び先導的な取組みを行う「自治体SDGsモデル事業」に内閣府から選定された。『大田区SDGs未来都市計画』（2023区）における「自治体SDGsの推進に資する取組」として、「地域力を生かした将来のまちの活力の維持」が指摘されている。そこでは、「子どもの孤独・孤立を防ぎ、気づき・見守る、切れ目のない支援」へ向けた具体的取組として、「子どもの見守り体制の強化」が掲げられている。さらに、公民連携や住民参加の推進の観点から、本事業は区における「自治体SDGsモデル事業」の「社会面の取組」に位置付けられており、これらの課題の解決に資するものである。

(3) 事業内容

令和4年6月から令和6年3月まで、事業への参加希望があった者（以下、「利用者」という。）に対し、地域ボランティア（事業内では「ご近所さんサポーター」と呼称）が月1回自宅へ訪問する。そして訪問時に0歳の乳児を抱える養育者へ液体ミルクやおしりふき等の子育て用品をお渡しし、10分から15分程度を目安として玄関先での話し相手となり、地域の育児に関する情報提供、地域のサロン等への案内やつなぎ役を担う。

また、モデル事業として、予防的支援や地域づくりへの効果、対象者との関係性構築の手法、関係行政機関及び民間団体との連携方法等、対象者の状況に応じた適切な関わり方等を検証するために、利用者に対し、アンケート及びインタビュー調査を実施し、分

析・評価を行った。

なお、有償ボランティアとすることは、活動の継続性や質の確保に有利との見解もあるが、時として利用者をサービスの消費者として受動的な立場に立たせてしまう可能性がある。したがって、本事業の住民参加の文化の醸成及び支えあいの地域づくりの趣旨を徹底する見地から、「ご近所さん」及び利用者ともに無償の事業とした。

(4) 対象者

区内 2 地区（A 特別出張所管内及び B 特別出張所管内）に居住している 0 歳児を育てている養育者のうち、本事業への参加を希望する者。なお、2 地区の選定にあたっては、人口規模及び年間出生数が同程度であることその他、収入階層や児童虐待通報数の差異等を考慮した。

(5) 周知方法

対象となる特別出張所管内で実施した「すこやか赤ちゃん訪問」（全数訪問事業）でチラシを配布し、周知した。また、利用人数の確保のために、「すこやか赤ちゃん訪問」でのチラシ配布以外に、対象年齢ではあるが既に「すこやか赤ちゃん訪問」を終えた養育者の自宅へチラシを郵送した。さらに、対象地区内にある児童館や子育てひろばにチラシを掲示する等の方法による周知を追加で行った。なお、令和 4 年 6 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの累計の申込状況を以下に示す。

令和 4 年 6 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの申込状況（累計）

	利用申込数	「赤ちゃん訪問」数	「赤ちゃん訪問」数 に対する利用申込率
A 地区	32	245	13.0%
B 地区	83	340	24.0%
合計	115	585	20.0%

(6) 「ご近所さん」に係る募集方法・交流会（研修会）・特徴

民生委員児童委員、地域活動団体、小学校保護者等から公募した。公募のための周知は、大田区社会福祉協議会（以下、「社協」という。）のホームページ、対象地区内の小学校でのチラシの配布、区報や区設掲示板へのポスター掲示等により実施した。

登録は、対面の登録ではなく、LINE を経由して登録してもらうことで登録完了となる。登録後、社協が作成した動画を含むスライド（巻末資料参照）を見て、事業の流れや役割、訪問時の心得等を学ぶ。また、知識・コミュニケーション能力の向上のため、社協は以下のとおり令和 4 年度に 3 回の研修会・交流会を実施。また、本事業の改善に役立てるため、子育て支援団体等に所属し助産師や保育士の資格を保持する活動意欲の高い「ご近所さん」のコアメンバーとの意見交換会を 1 回実施した。令和 5 年度は 3 回の研修会・交流会、3 回のコアメンバーとの意見交換会を実施。さらに令和 5 年度は、利用者が子育てから一時解放され、養育者自身が楽しむ機会をつくるとともに、利用者同士、利用者と「ご近所さん」が交流し関係を深める企画として、保育付きの「ご

近所さんキッチンカフェ」を試行的に開催し、参加者から高い評価を得た(別紙 1「ご近所さん交流会アンケート」)。

また、令和 5 年 5 月 31 日時点の「ご近所さん」の地区別特徴・活動状況・世代別特徴を下表に示す。

① (令和 4 年度) 第 1 回ご近所さんサポーター交流会

(参加者:「ご近所さん」15 名)

日時:令和 4 年 7 月 12 日 (火) 午前 10 時~11 時 30 分 オンライン開催(6 名)

令和 4 年 7 月 30 日 (土) 午前 10 時~11 時 30 分 対面開催(9 名)

場所:社協会議室

講師・ファシリテーター:社協職員

内容:活動内容と産後のお母さんの身体と心の変化

② (令和 4 年度) 第 2 回ご近所さんサポーター交流会

(参加者:「ご近所さん」6 名)

日時:令和 4 年 11 月 8 日 (火) 午前 10 時~11 時 30 分

場所:社協会議室

講師・ファシリテーター:子育て支援に識見のある「ご近所さん」

内容:「0 歳児を育てているお母さんの気持ちに寄り添うコミュニケーション」

③ (令和 4 年度) 第 3 回ご近所さんサポーター交流会

(参加者:「ご近所さん」6 名、他事業のボランティア 11 名)

日時:令和 5 年 1 月 28 日 (土) 午前 10 時~11 時 30 分

場所:社協会議室

講師:東邦大学看護学部教授 福島富士子氏

内容:「産前からの切れ目のない地域の見守り」

④ (令和 4 年度) 第 1 回ご近所さん事業コアメンバー交流会

(参加者:「ご近所さん」4 名)

日時:令和 5 年 3 月 1 日 (水) 午前 10 時~午後 0 時

場所:社協会議室

ファシリテーター:社協職員

内容:意見交換

⑤ (令和 5 年度) 第 1 回ご近所さんサポーター交流会

(参加者:「ご近所さん」7 名)

日時:令和 5 年 5 月 27 日 (土) 午前 10 時~11 時 30 分

場所:社協会議室

講師・ファシリテーター:子育て支援に識見のある「ご近所さん」

内容:「お母さんと赤ちゃんの心をつかむコミュニケーション」

- ⑥ (令和5年度) 第1回ご近所さん事業コアメンバー交流会
(参加者:「ご近所さん」4名)
日時:令和5年6月16日(金)午後1時30分~3時30分
場所:社協会議室
ファシリテーター:社協職員
内容:意見交換
- ⑦ (令和5年度) 第2回ご近所さん事業コアメンバー交流会
(参加者:「ご近所さん」3名)
日時:令和5年9月15日(金)午後1時30分~3時30分
場所:社協会議室
ファシリテーター:社協職員
内容:意見交換
- ⑧ (令和5年度) ご近所さんサポーター・利用者交流会
「ご近所さんキッチンカフェ」(参加者:利用者8名・「ご近所さん」3名)
日時:令和5年11月19日(日)午前10時~11時30分
場所:嶺町文化センター調理室
講師・ファシリテーター:保健所職員(管理栄養士・保健師)・社協職員
保育スタッフ:保育士資格を持つ「ご近所さん」2名、
NPO法人たすけあい大田 はせさんずスタッフ4名
内容:料理教室(お菓子づくり)、交流会(カフェタイム)
- ⑨ (令和5年度) 第2回ご近所さん事業コアメンバー交流会
(参加者:「ご近所さん」2名)
日時:令和5年12月13日(水)午前10時~11時
場所:社協会議室
ファシリテーター:社協職員
内容:意見交換
- ⑩ (令和5年度) 第3回ご近所さんサポーター・利用者交流会
(参加者:利用者3名、「ご近所さん」2名、その他4名)
日時:令和6年2月23日(金・祝日)午後1時30分~3時
場所:社協会議室
講師・ファシリテーター:石丸識子氏
(産前産後ママ広場「まるまる」代表・助産師)
内容:「助産師さんからみた産前産後のお母さんのからだど心の変化」・交流会

「ご近所さん」の地区別特徴

	利用者	「ご近所さん」		
		登録者数	平日昼間活動可	土日や夕方活動可
A 地区	少ない	少ない	少ない	多い
B 地区	多い	多い	多い	少ない

「ご近所さん」の活動状況

世代	人数	活動している人	活動していない人	登録者数に対する活動している人の割合
A（60歳以上）	13	13	0	100%
B（46歳～59歳）	31	24	7	77%
C（35歳～45歳）	25	14	11	56%
D（34歳以下）	6	2	4	33%
合計	75	53	22	71%

（活動していない理由）

- ・ B 世代では平日は仕事があり、土曜または日曜日のみ活動が可能という理由が多く、平日活動可能であっても夕方 6 時過ぎ以降という「ご近所さん」もいる。また、少数ではあるが親の介護や身内に不幸があったという理由で活動に至っていない事例がある。
- ・ C 世代では、子どもの学校や習い事などの用事で活動時間が確保出来ない事例が比較的多く、次に仕事があるので土日なら活動可能という理由が続く。さらに、子連れでも活動できるか（1 歳児）との相談があった事例があった。
- ・ D 世代では、土日のみ活動可能という理由であった。

「ご近所さん」の世代別特徴

	A世代	B世代	C世代	D世代
「ご近所さん」の世代	60歳以上 利用者の母親もしくは祖父母に近い世代	46歳～59歳	35歳～45歳 利用者より少し年齢が上の世代	34歳以下 利用者と同世代
特徴	・孫(ひ孫)がいる世代 ・専業主婦が多い世代 ・実母や義理母の手を借りながら子育てをしていた、団地や社宅にたくさん子どもがいる、専業主婦同士のつながりがある環境で子育てをしていた世代 ・子育てが遠い記憶となっている世代。	・中学生、高校生、大学生の子どもがいる世代 ・A世代タイプとC世代タイプが混在している世代 ・専業主婦から共働働き世代へ移行していた世代 ・0歳児の子育ての記憶は少し遠くなっている世代	・未就学児や小学生の子を持つ母親世代 ・数年前に0歳児を子育てしていた世代 ・保活に詳しい世代	・未就学児や小学生低学年の子を持つ母親世代 ・共働き世代の割合が高い ・育児・家事に協力的な夫も増えてきている世代 ・保活に詳しい世代
長所	おばあちゃん的な存在として関わることができれば、お母さんたちの癒しになる。	・サポーター自身の子育て経験によって、今のお母さんたちへの理解度は変わる。 ・サポーター交流会などを通して、自身が乳幼児を育てていた時の大変さを思い出し、再確認することが比較的容易にできる世代。	・サポーター自身が、第1子の子育ての時、ワンオペで辛かった、寂しかった、孤独だったという経験をしている人が多いため、お母さんたちへの理解は高い。 ・今の時代の育児方法を知っている。 ・保活の話で盛り上がる。 ・児童館や公園などの地域の情報に詳しい。	・C世代と同じ長所を持つ。
短所	・子育てをしていた記憶がかなり前ということもあり、なぜ0歳児のお母さんたちが孤独や孤立感を感じるのかを理解することに難しさがある。 ・今の時代の育児方法を知らない。	・一歩間違えると小姑的な存在になる可能性がある。 ・今の時代の育児方法を知らない場合も多い。しかし、時代によって育児方法に違いがあることを経験している世代であるため、自分の考えをお母さんたちに押しつけないように配慮しながら関わることができる。	・お互いの年齢が近いので、子育てのアドバイスが行き過ぎると利用者にとって、逆効果になる可能性もある。	・仕事と育児・家事を回しながらのボランティア活動になるため、継続した活動が難しくなるケースも多い。 ・サポーター本人の子どもも年齢が低いため、風邪やインフルエンザ等で訪問日時が変更になる可能性が高い。

※本表の分類は、募集にかかる実務担当者の印象や経験に基づくものである。「世代」よりも「個人差」の方が大きいと思われ、あくまで個別化の必要があるが、世代別の傾向も参考にしながらマッチングやフォローアップをすることで、利用者と「ご近所さん」の関係がより円滑になると思われる。

(7) 実施体制

本事業には社協と区の関係機関が関与し、それぞれの役割を果たしつつ、協力して事業を実施した。関係機関とその役割については、以下のとおりである。

- ① こども・子育て家庭への福祉に関する相談支援を所管する区子ども家庭支援センターは、母子保健を所管する区健康づくり課及び社協との定期連絡会（以下、「定例会」という。）を月1回開催し、事業の全体的進行管理を実施するとともに、定例会での事例検討を通じて児童虐待予防の視点から調整・支援を行う。
- ② 区健康づくり課は、「すこやか赤ちゃん訪問」事業等を活用し、助産師等の訪問員から利用対象者へ直接事業の案内を行い、利用者の募集を実施する。同時に、地域を担当する地域健康課の保健師と連携し、児童虐待予防の視点から必要に応じ健診時の面接相談や家庭訪問等によるアウトリーチ支援を行う。
- ③ 社協は、「ご近所さん」の募集・登録、利用希望者と「ご近所さん」とのマッチング、初回訪問への同行及びモニタリング訪問実施等の地域住民との協働のためのコーディネート業務並びに定例会で検討を行う事例の選定等区との連携調整業務を行う。

(8) 各特別出張所管内の状況

・ A 特別出張所管内

人口：約 20,000 世帯数：約 10,000 年間出生数：約 130
利用者数：11 「ご近所さん」数：17 （令和6年2月29日現在）

・ B 特別出張所管内

人口：約 26,000 世帯数：約 14,000 年間出生数：約 170
利用者数：38 「ご近所さん」数：38 （令和6年2月29日現在）

2 利用者調査（アンケート）

(1) 調査票

- ① 利用開始前アンケート（別紙 2-1）
- ② 利用中アンケート（別紙 2-2）
- ③ 利用終了時アンケート（別紙 2-3）
- ④ 利用終了1年後アンケート（別紙 2-4）

※④については本報告書作成時点で未実施。

(2) 倫理的配慮

Web上の利用開始前アンケート入力フォームにおいて、アンケート結果及び個別のインタビュー調査から得られたデータについては、個人・団体・地域が特定されない形式で取り扱い、東京都（以下、「都」という。）・区・社協において子育て支援施策の検討に役立てること、回答データ・分析結果等について報告書を都へ提出するとともに、関係学会等での発表に使用する可能性があること等について、アンケート回答後も随時

調査協力を撤回することが可能であることを明示して利用者の承諾を得た。

(3) 調査結果

① 概要

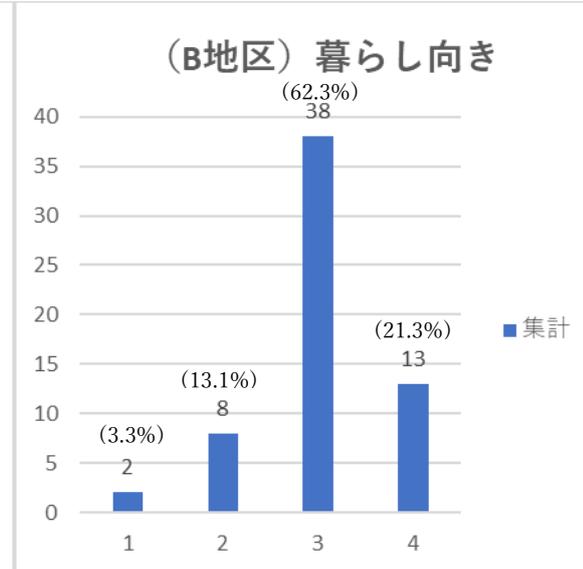
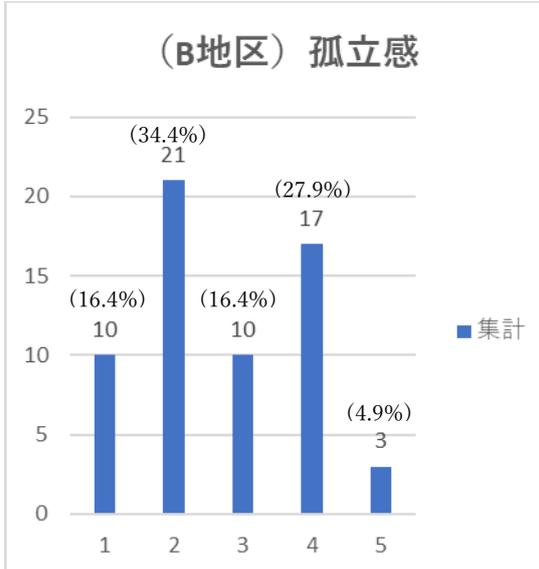
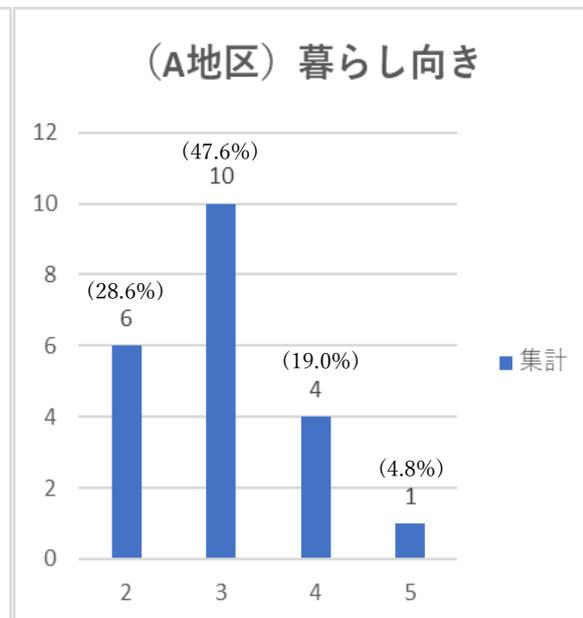
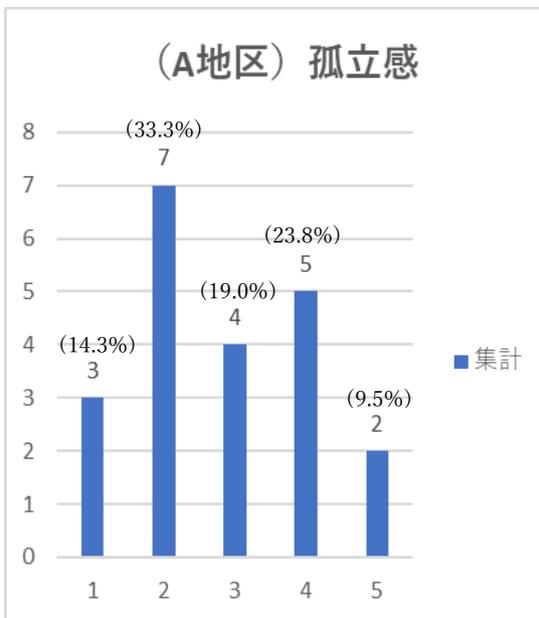
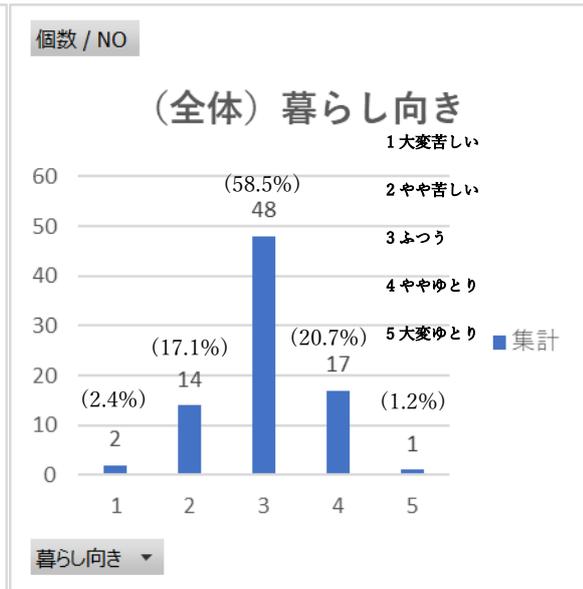
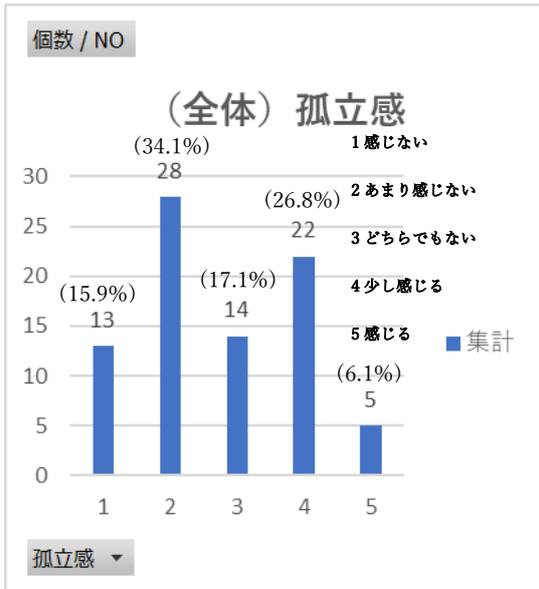
令和5年12月20日現在で回答があった82事例（A地区21、B地区61）の利用開始前アンケートの項目のうち、「孤立感」「暮らし向き」「世帯年収」「養育者の健康」「子育ての楽しさ」「養育者の年齢」「手助けを頼める人数」「愚痴を聞いてくれる人数」「対象児以外の子どもの数」「仕事の状況」「対象児の月齢」について集計し、利用開始前の「孤立感」との相関関係を分析した。

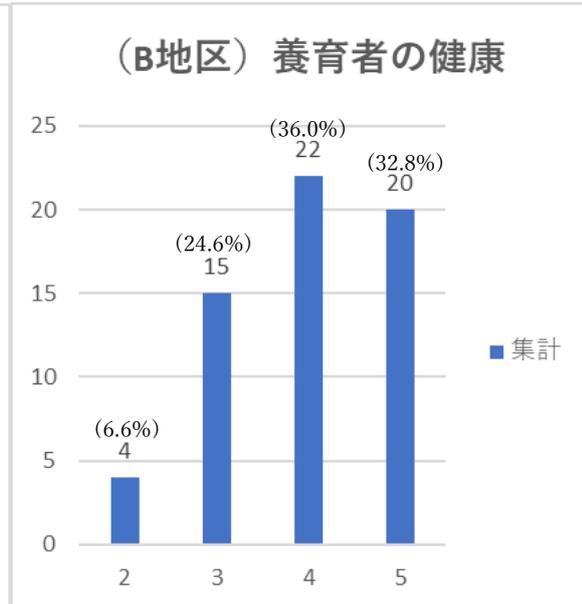
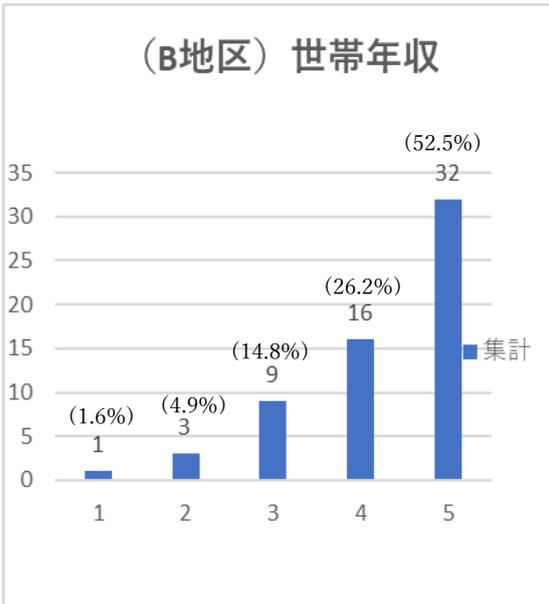
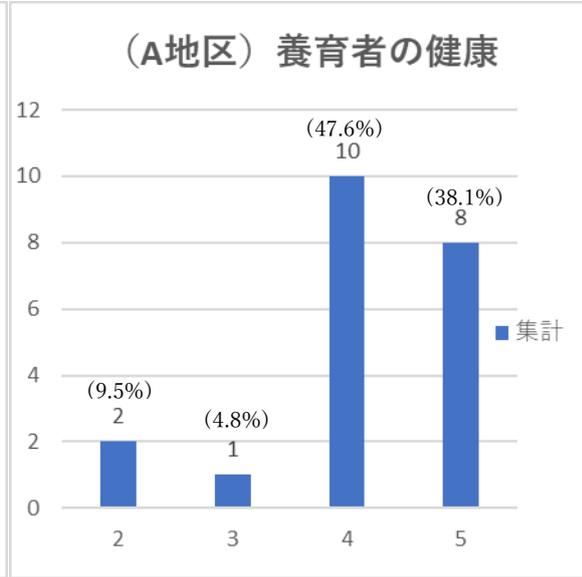
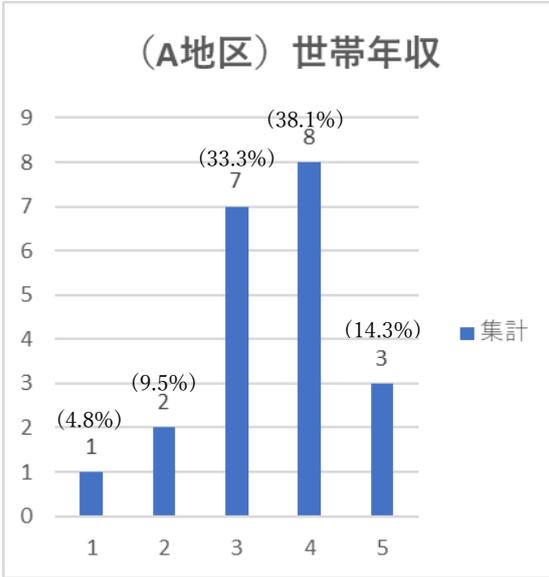
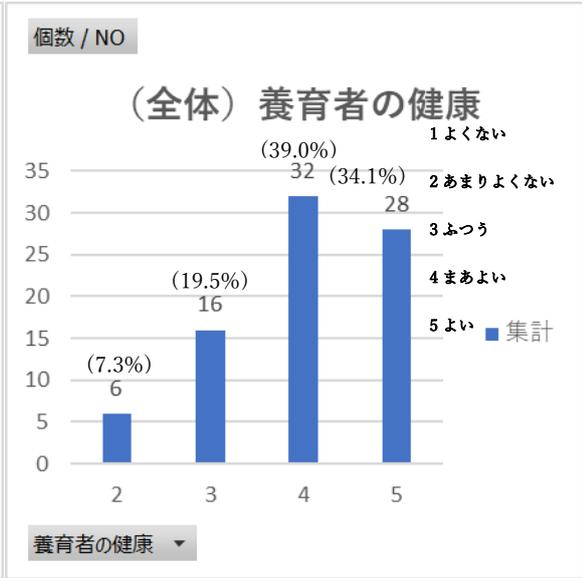
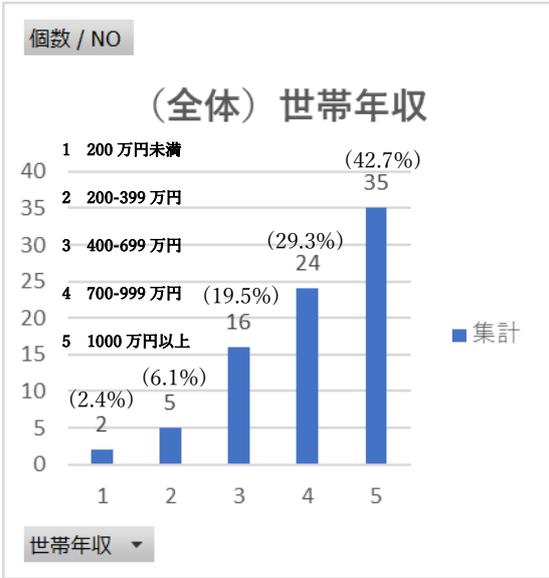
また、利用開始前アンケート、同一事例の対応する利用中アンケート及び利用終了時アンケートが得られている39事例については利用終了時アンケートを使用（終了時アンケート回答総数は40であったが対応する利用開始前アンケートの回答がない1事例は集計の対象から除外）し、82事例（A地区21、B地区61）の「孤立感」に関する事例数の推移を検討した。また、点数の平均値の推移については、終了時アンケートまで回答がなされている39事例についてのみ推移を検討することとした。なお、利用中アンケートは訪問ごとに回答を依頼しており、同一の利用者に対し複数の回答データが存在するが、直近の回答データを用いた。

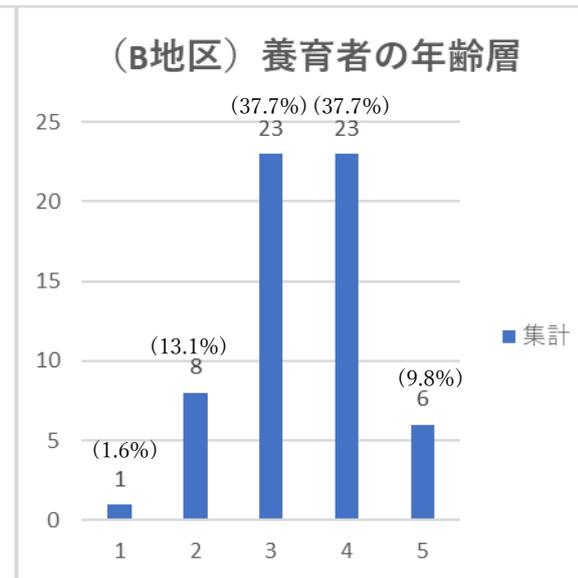
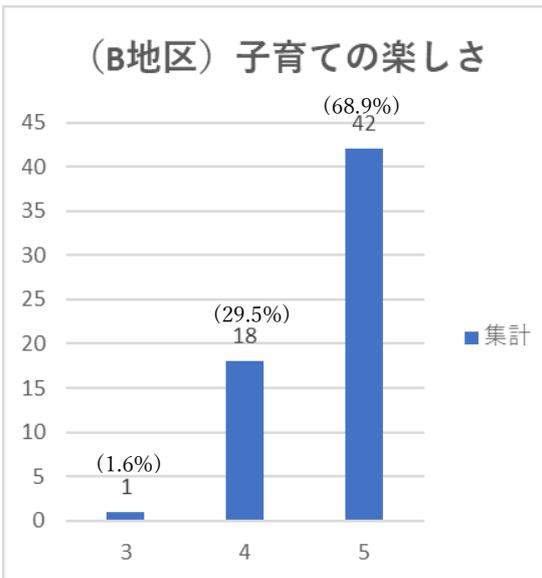
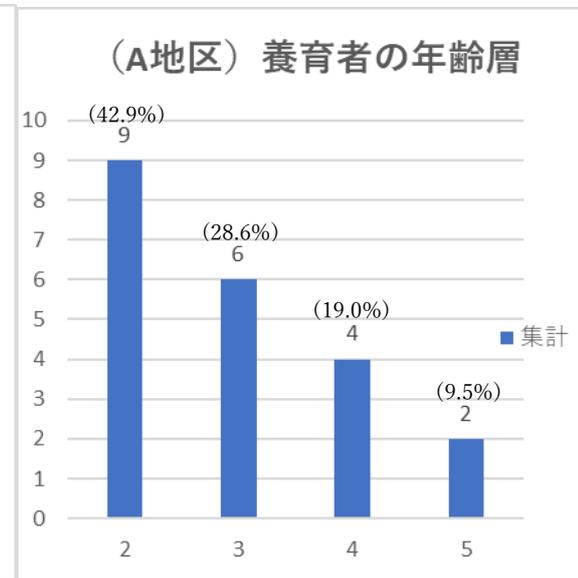
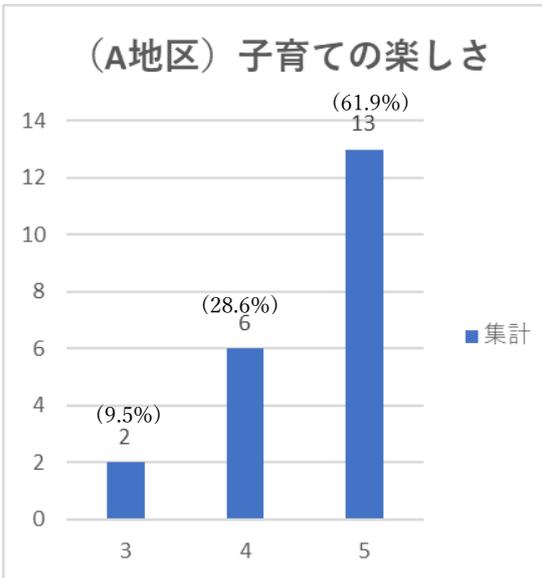
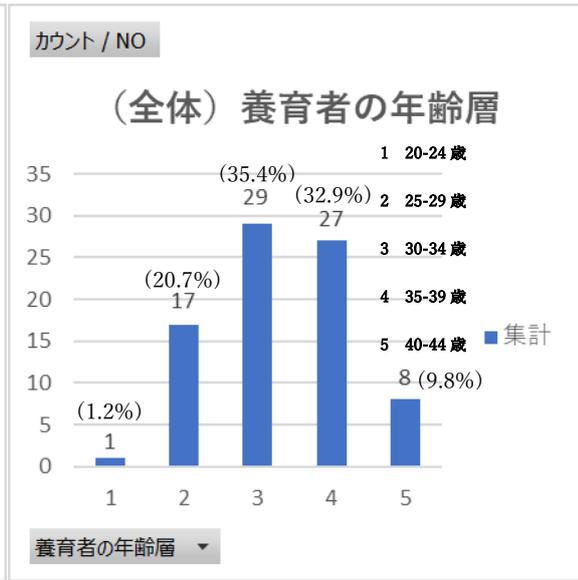
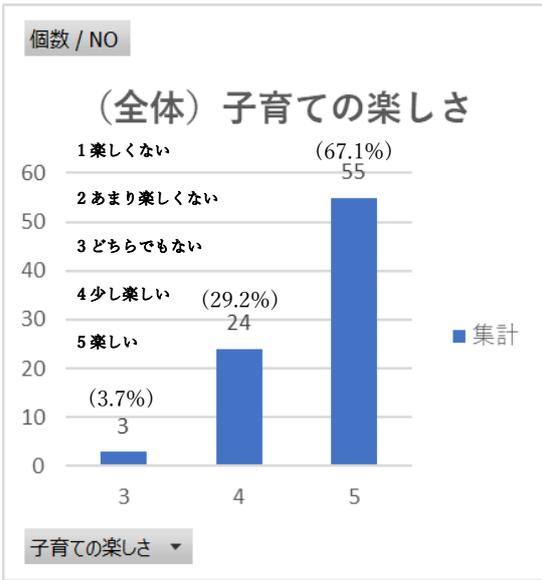
令和6年2月29日現在の利用者数は、A地区11名、B地区38名、合計49名である。地区別のサンプル数には不均衡があり、とりわけA地区のサンプル数が少なく、可能な限り分析の精度を高めることを目的に、2地区全体の集計結果を重視した。ただし、B地区の利用開始前アンケートの回収数はA地区の2.9倍となっていることから、収入階層等B地区の地域特性がより強く反映されると考えられる。また、「ご近所さん」への満足度等、他の項目についても取り上げる。

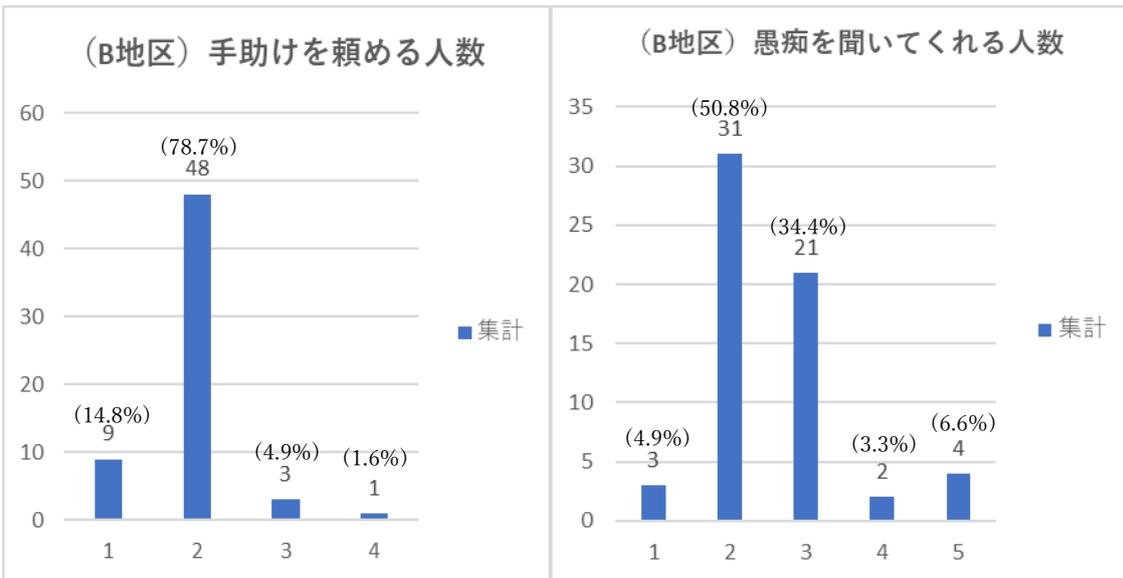
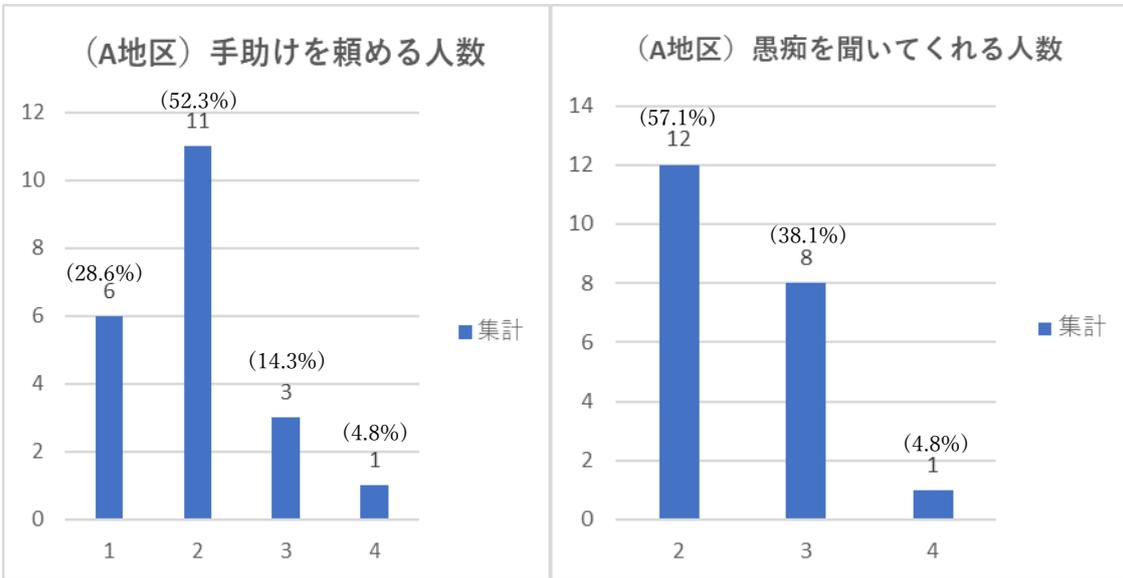
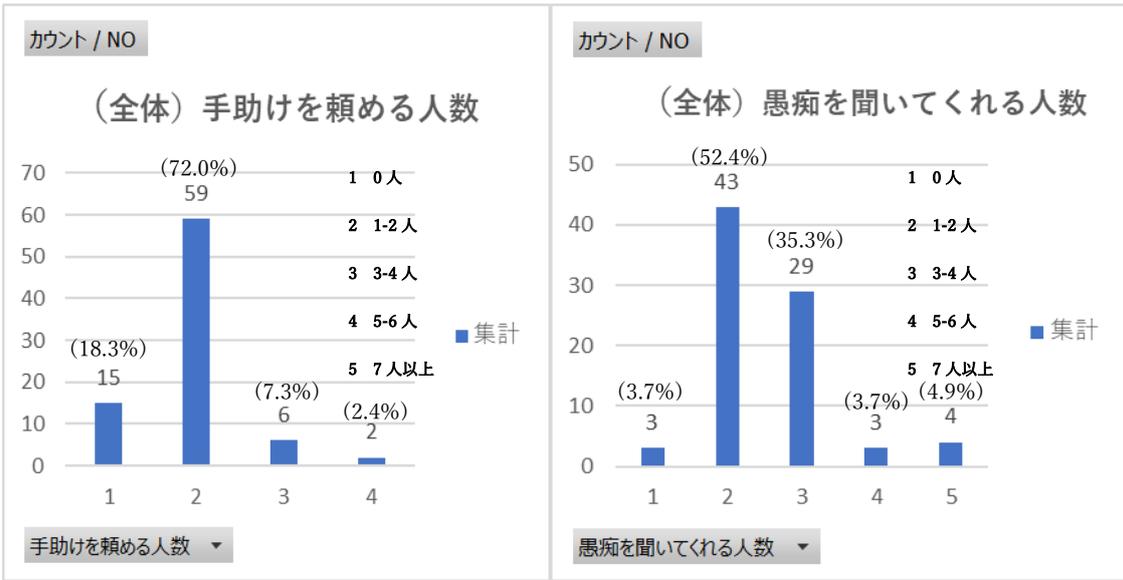
以下に「孤立感」及びその他の9項目の単純集計、クロス集計結果とステレオグラム、またこの9項目に「対象児の月齢」を加えた10項目と利用開始前の「孤立感」との相関関係を示す。

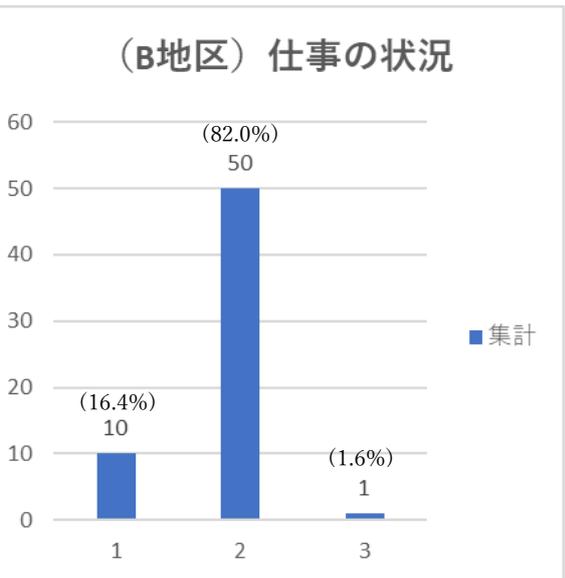
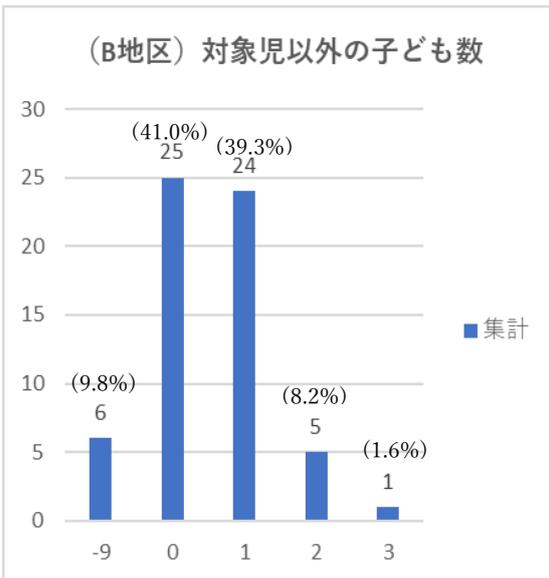
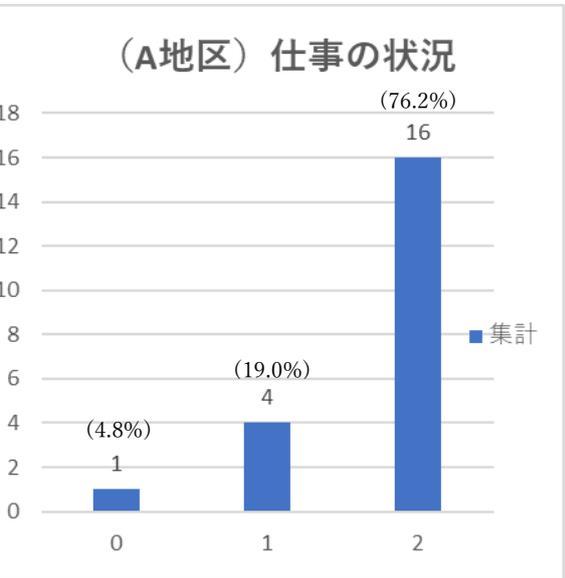
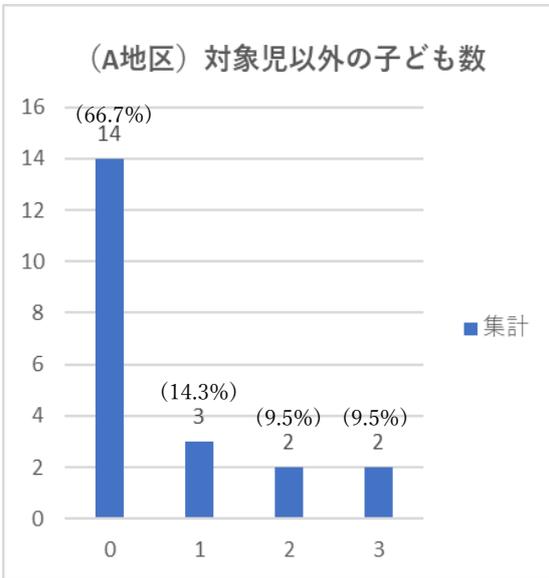
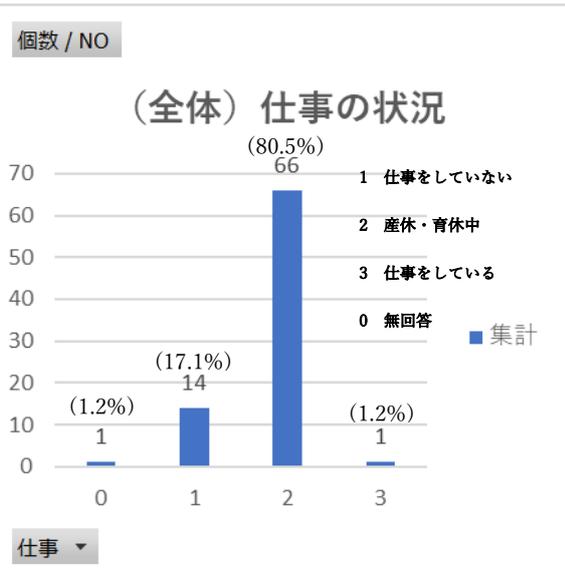
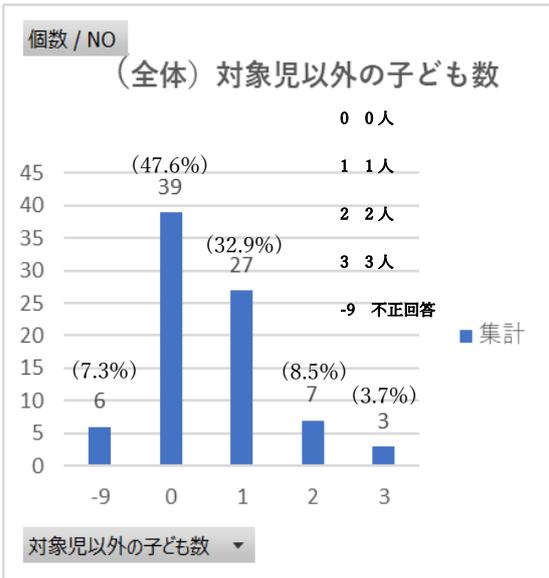
各項目の単純集計結果





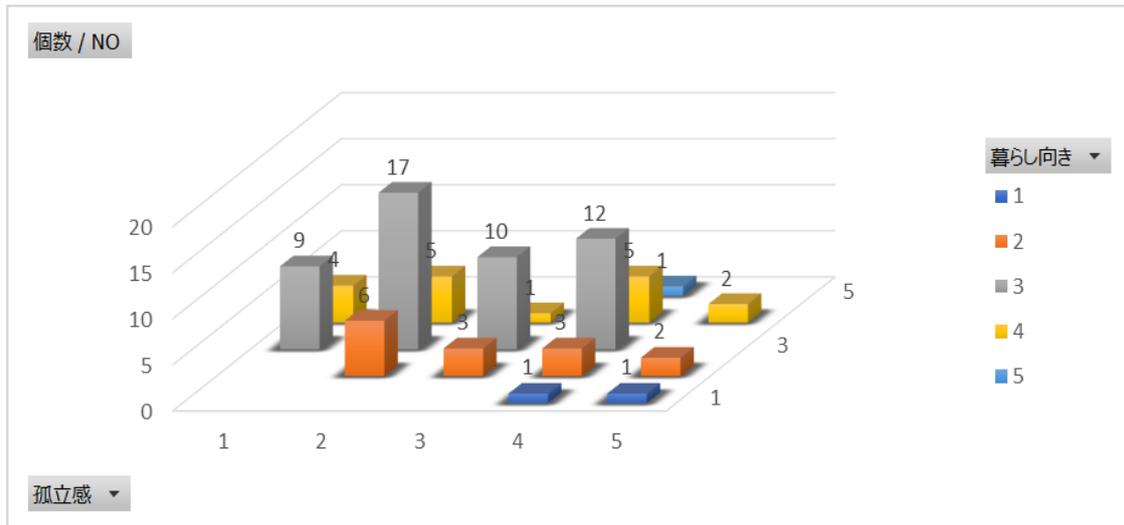




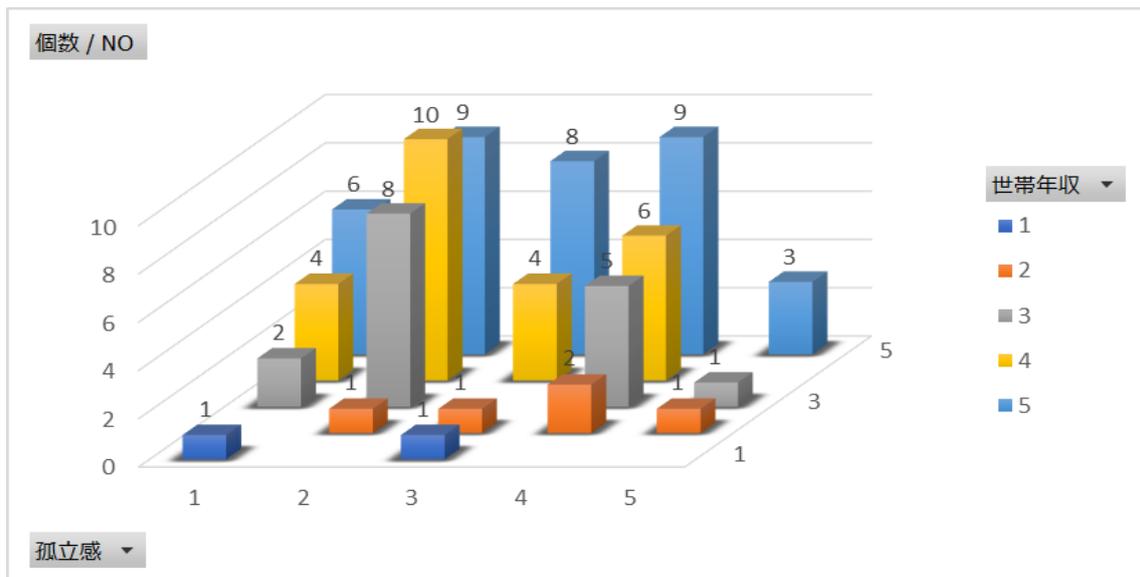


「孤立感」とその他の項目のクロス集計結果・ステレオグラム

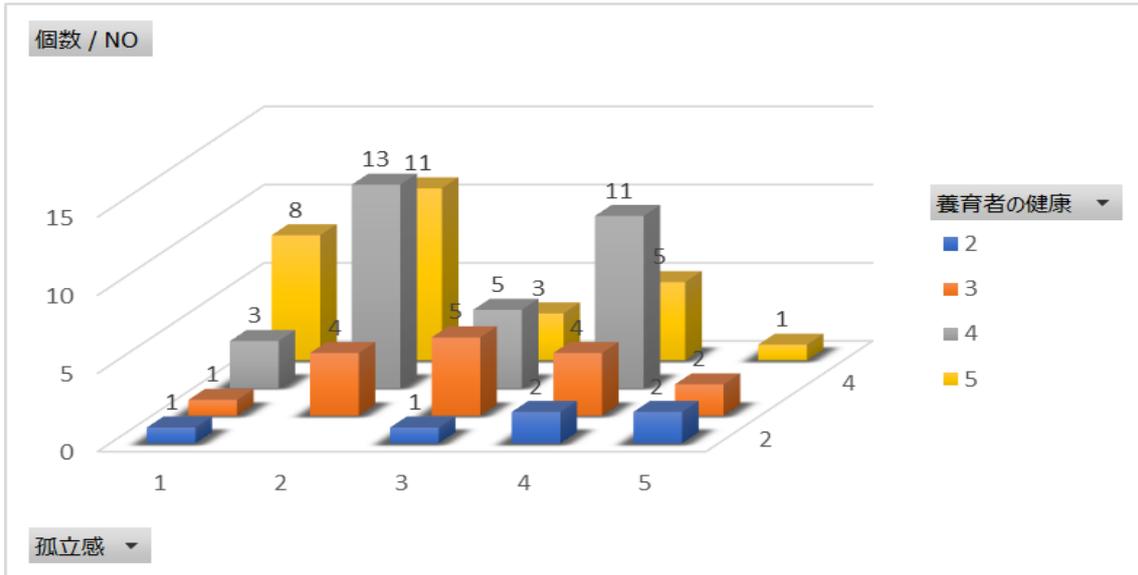
孤立感 (列)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	総計
暮らし向き (行)						
1 大変苦しい				1	1	2
2 やや苦しい		6	3	3	2	14
3 ふつう	9	17	10	12		48
4 ややゆとり	4	5	1	5	2	17
5 大変ゆとり				1		1
総計	13	28	14	22	5	82



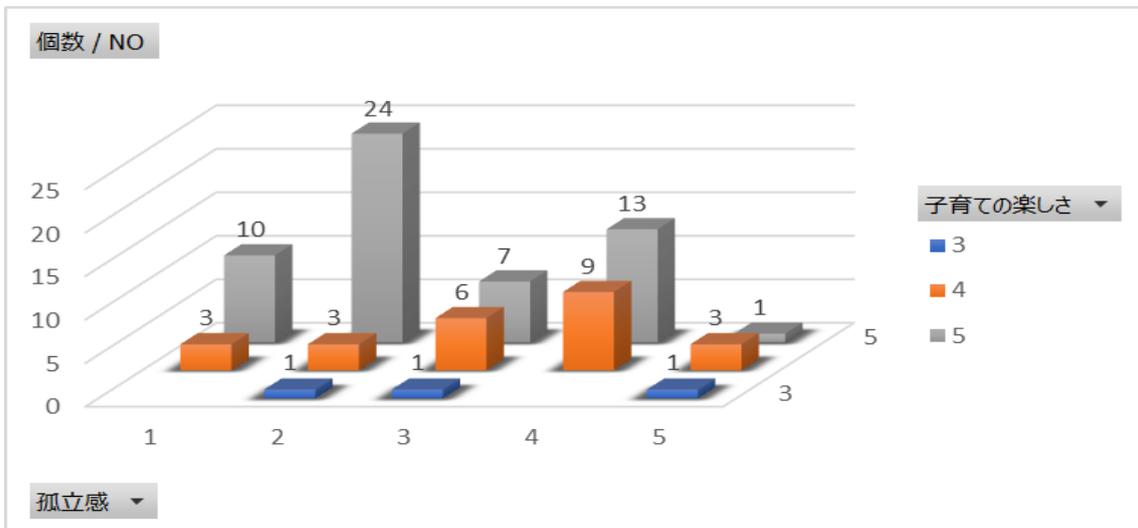
孤立感 (列)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	総計
年収 (行)						
1 200万円未満	1		1			2
2 200-399万円		1	1	2	1	5
3 400-699万円	2	8		5	1	16
4 700-999万円	4	10	4	6		24
5 1000万円以上	6	9	8	9	3	35
総計	13	28	14	22	5	82



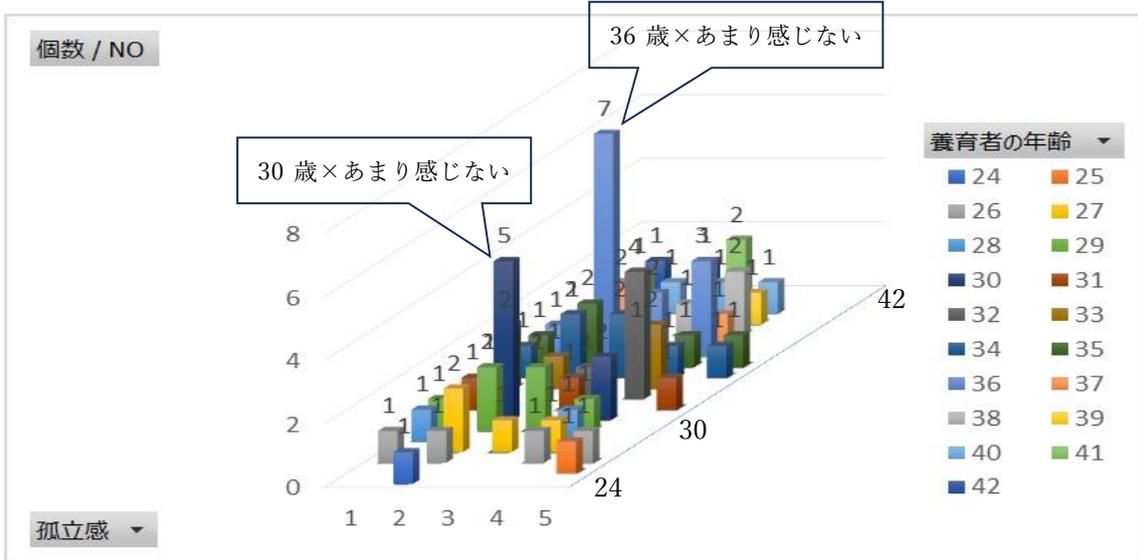
孤立感 (列)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	総計
養育者の健康 (行)						
1 よくない						
2 あまりよくない	1		1	2	2	6
3 ふつう	1	4	5	4	2	16
4 まあよい	3	13	5	11		32
5 よい	8	11	3	5	1	28
総計	13	28	14	22	5	82



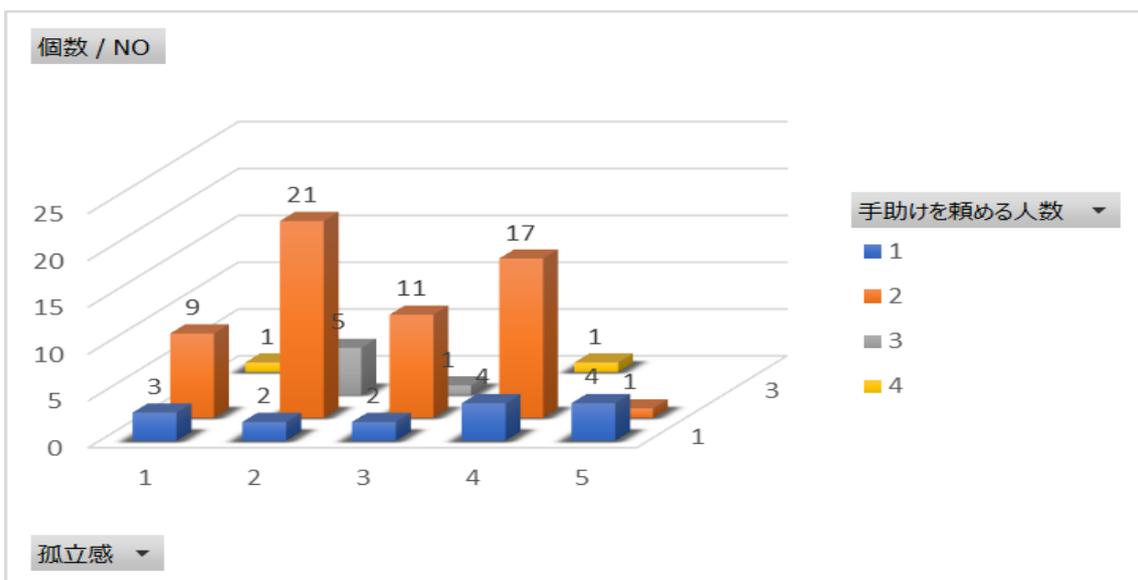
孤立感 (列)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	総計
子育ての楽しさ (行)						
1 楽しくない						
2 あまり楽しくない						
3 どちらでもない		1	1		1	3
4 少し楽しい	3	3	6	9	3	24
5 楽しい	10	24	7	13	1	55
総計	13	28	14	22	5	82



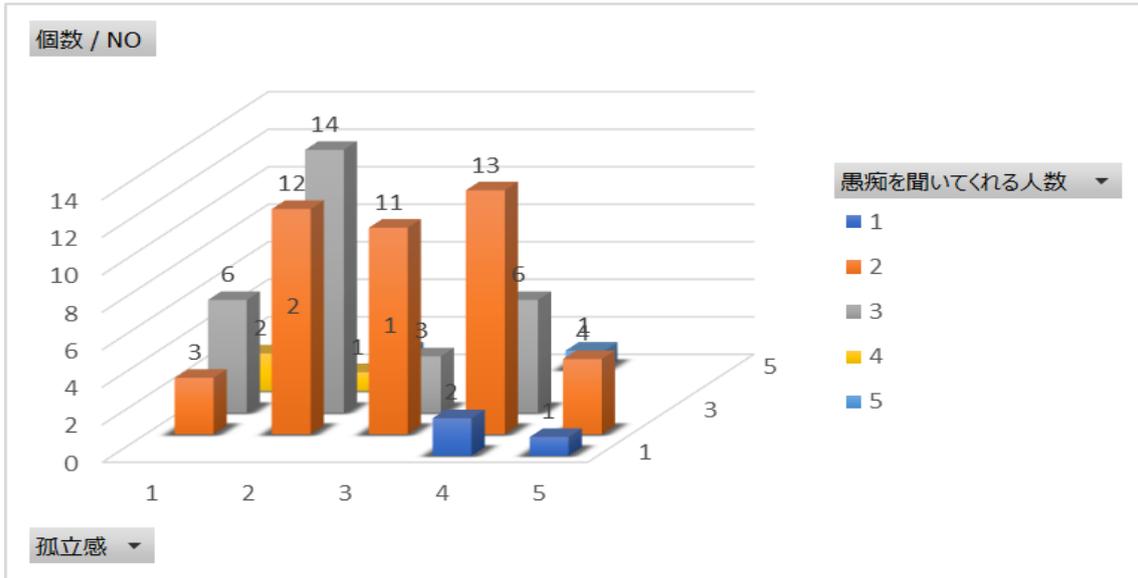
孤立感 (列)						総計
養育者の年齢 (行)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	
1 24歳		1				1
2 25-29歳	3	5	3	4	2	17
3 30-34歳	5	9	4	9	2	29
4 35-39歳	3	11	4	8	1	27
5 40-42歳	2	2	3	1		8
総計	13	28	14	22	5	82



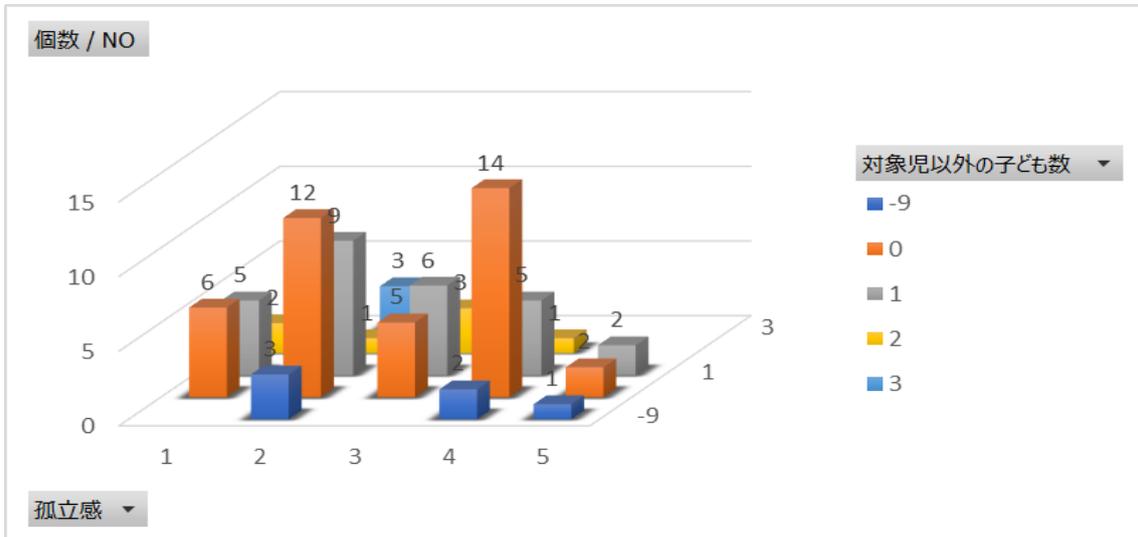
孤立感 (列)						総計
手助け頼める人数 (行)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	
1 0人	3	2	2	4	4	15
2 1-2人	9	21	11	17	1	59
3 3-4人		5	1			6
4 5-6人	1			1		2
5 7人以上						
総計	13	28	14	22	5	82



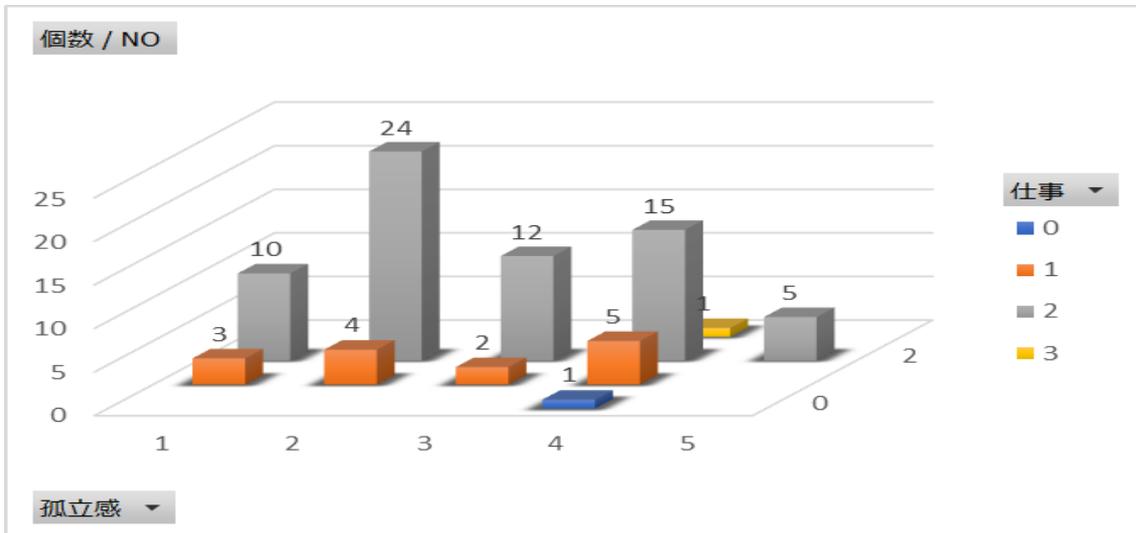
孤立感 (列)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	総計
患痴を聞いてくれる人数 (行)						
1 0人				2	1	3
2 1-2人	3	12	11	13	4	43
3 3-4人	6	14	3	6		29
4 5-6人	2	1				3
5 7人以上	2	1		1		4
総計	13	28	14	22	5	82



孤立感 (列)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	総計
対象児以外の子ども数 (行)						
0人	6	12	5	14	2	39
1人	5	9	6	5	2	27
2人	2	1	3	1		7
3人		3				3
不正回答(-9)		3		2	1	6
総計	13	28	14	22	5	82



孤立感 (列)	1 感じない	2 あまり感じない	3 どちらでもない	4 少し感じる	5 感じる	総計
仕事の状況 (行)						
1 していない	3	4	2	5		14
2 産休・育休中	10	24	12	15	5	66
3 している				1		1
無回答(0)				1		1
総計	13	28	14	22	5	82



「孤立感」(利用開始前) とその他の項目の相関関係

項目(*相関あり)	相関係数(r) ¹	相関関係 ²
暮らし向き **	-0.440	比較的強い負の相関
世帯年収	-0.073	相関なし
養育者の健康 **	-0.443	比較的強い負の相関
子育ての楽しさ *	-0.348	弱い負の相関
養育者の年齢	-0.016	相関なし
手助けを頼める人数 *	-0.229	弱い負の相関
愚痴を聞いてくれる人数 **	-0.428	比較的強い負の相関
対象児以外の子どもの数 *	-0.224	弱い負の相関
養育者の仕事の状況	0.086	相関なし
対象児の月齢	0.112	相関なし

1 相関係数(r)は、Microsoft 365 Excel の CORREL 関数により算出。

2 相関関係の判断は以下による。

0.0 ≤ |r| ≤ 0.2 : 相関なし 0.2 < |r| ≤ 0.4 : 弱い相関あり

0.4 < |r| ≤ 0.7 : 比較的強い相関あり 0.7 < |r| ≤ 1.0 : 強い相関あり

② 利用開始前アンケート、利用中アンケート及び利用終了時アンケート間の「孤立感」の推移

アンケートにおける「孤立感」の推移を下表に示す。

比較した 82 事例のうち、「孤立感」が改善した事例が 25(A7・B18)事例、悪化した事例が 17(A7・B10)事例、変化がなかった事例が 40(A7・B33)事例あった。3 種類のアンケートの時系列の比較では、利用中で改善した事例が終了時で悪化し、利用前との比較では悪化又は変化なしに転じるなど浮動する事例が多く、直線的に改善している事例は少ない。それぞれのアンケートの回答時における環境条件や生活状況、また健康状態や気分等が回答に影響を与えている可能性がある。全体としては変化が見られなかった事例が 40 と最多であるが、改善事例(25)が悪化事例(17)を上回っている。しかし、A 地区では、改善 7、悪化 7、変化なし 7 と改善・悪化・変化なしの事例が同数であった。

つぎに、終了時アンケートの「孤立感」の回答が得られている 39 事例(A10 事例、B29 事例)に対応する同一事例の利用開始前アンケートの「孤立感」の点数の平均値は 3.00(A2.70・B3.10)、同じく対応する同一事例の利用中アンケートの同項目のそれは 2.90(A2.70・B2.97)、終了時アンケートでは 2.95(A3.20・B2.86)であった(孤立感 5「感じる」、4「すこし感じる」、3「どちらでもない」、2「あまり感じない」、1「感じない」)。

全体の平均値は、利用前と比較すると、利用中の値では改善、終了時の値との比較では利用前よりは改善しているが利用中よりわずかながら悪化している傾向がみられた。この悪化傾向の要因としては、各アンケートの回答時において、パートナーの育児休業からの職場復帰によっていわゆるワンオペ状態になったり、里帰りした利用者の実家からの帰宅で親族との交流や支援がなくなった等の環境条件及び生活状況の変化並びに利用者の健康状態及び気分等が回答に影響している可能性が相関関係からも推察される。

「孤立感」の改善・悪化の状況：事例数

	改善	悪化	変化なし	計
A 地区	7	7	7	21
B 地区	18	10	33	61
全体	25	17	40	82

※利用前アンケート 82 事例と同一事例につき、終了時アンケートの回答がある事例については終了時アンケート、終了時アンケートの回答が得られていない事例については直近の利用中アンケートへの回答で比較。

「孤立感」の平均値の推移

	利用前 (39 事例)	利用中 (39 事例)	終了時 (39 事例)
A 地区 (10)	2.70	2.70	3.20
B 地区 (29)	3.10	2.97	2.86
全体	3.00	2.90	2.95

※終了時アンケートの回答が得られている 39 事例と同一事例の回答で比較。

③ 利用中アンケート及び利用終了時アンケートにおける満足度等

『「ご近所さん」に満足度しているか』、『「ご近所さん」に悩み事を相談する(した)か』、『ご近所づきあいを続けていこうと思うか』(終了時のみ)の3項目の平均値等は下表のとおりである。

「満足度」の点数については、利用中と終了時の比較ではやや低下傾向であるが、いずれも平均値が4.55以上となっており高い水準である。また、回答者のうち、5「満足している」を選択した利用者は76.8%、4「すこし満足している」を選択した利用者は11.0%、合計87.8%と事業への満足度は高い。『「ご近所さん」への相談』では、相談する(した)利用者は増加傾向で、いずれも平均値は1.64以上となっている。回答者のうち、2「はい」(相談する(した))を選択した利用者は、76.8%である。

さらに、終了時アンケートにおいて「相談する(した)」に「はい」と回答した利用者、「ご近所づきあいを続けていこうと思うか」と尋ねたところ、その点数の平均値は地区別・全体ともに4.0であった。回答比率は、5「続けていく」が23.5%、4「できれば続けたい」が58.8%、合計82.3%と高い比率となっている

※【満足度】：5「満足している」、4「すこし満足している」、3「ふつう」、2「あまり満足していない」、1「満足していない」；【「ご近所さん」への相談】：2「はい」、1「いいえ」；【ご近所づきあいの継続】：5「続けていく」、4「できれば続けたい」、3「どちらでもない」、2「あまり続けたくない」、1「続けたくない」

満足度・相談・ご近所づきあいの継続：点数平均値

	満足度 (利用中)	満足度 (終了時)	相談する (利用中)	相談する (終了時)	関係継続 (終了時)
A地区	4.67	4.60	1.71	1.80	4.0
B地区	4.69	4.55	1.64	1.90	4.0
全体	4.68	4.56	1.66	1.87	4.0

満足度：事例数・選択率(%)小数点第2位以下四捨五入

選択肢	5	4	3	2	1	計	5	4	3	2	1	計(%)
A地区	14	4	3	0	0	21	66.7	19.0	14.3	0	0	100
B地区	49	5	5	1	1	61	80.3	8.2	8.2	1.6	1.6	99.9
全体	63	9	8	1	1	82	76.8	11.0	9.8	1.2	1.2	100

相談する(した)：事例数・選択率(%)小数点第2位以下四捨五入

選択肢	1はい	2いいえ	計	1はい	2いいえ	計(%)
A地区	16	5	21	76.2	23.8	100
B地区	47	14	61	77	23	100
全体	63	19	82	76.8	23.2	100

ご近所づきあいの継続：事例数・選択率(%)小数点第2位以下四捨五入

選択肢	5	4	3	2	1	計	5	4	3	2	1	計(%)
A地区	2	4	2	0	0	8	25.0	50.0	25.0	0	0	100
B地区	6	16	3	0	1	26	23.1	61.5	11.5	0	3.8	99.9
全体	8	20	5	0	1	34	23.5	58.8	14.7	0	2.9	99.9

※「ご近所づきあいの継続」については終了時アンケート 39 事例のみ。本設問の回答数 34、無回答 5。

※B地区において選択肢1「続けたくない」を選んだ1事例の「満足度」は、5「満足している」、「相談」については、2「はい」を選択していた。「続けたくない理由」として、「金銭的な面。今後金銭が発生するなら続けられる余裕がありません。」と記述されている。有償の場合、利用をためらう層が一定数存在することが示唆される。

3 利用者調査(インタビュー)

令和5年2月から同年4月(事例1~8)、令和5年12月~6年2月(事例9~14)にかけて、14事例について訪問により利用者に20分程度のインタビュー調査を実施した。方法としては、質問内容について「孤立感・孤独感に変化はあったか」「事業を知り合いに勧めたいと思うか」「『ご近所さん』に希望すること」等大まかな質問項目を設定した半構造化面接を実施し、調査員(社協職員)が聴き取り内容を筆記する方式で行った。調査対象世帯は、利用者の承諾を得たうえで、A地区から5世帯、B地区から9世帯をサンプリングした。

サンプリングにあたっては、地区別の利用者数、アンケートの回答における「孤立感」の「改善」「悪化」「変化なし」、利用者の年齢等からみて事例に偏りがないよう配慮した。本事業による訪問回数については、初回アンケート等の回答から心身の不調が推測されるなどモニタリングを要すると判断した事例を除き、事業の利用効果を測定する観点から概ね5回以上を標準とした。なお、利用者の年齢は、20歳代が2名、30歳代が11名、40歳代が1名である。調査時点の対象児の月齢は、7か月が2名、8か月が1名、9か月が3名、10か月が3名、11か月が1名、13か月が3名、14か月が1名であった。調査時までの訪問回数は、2回が1名、3回が1名、4回が1名、5回が1名、6回が1名、7回が3名、8回が2名、9回が1名、11回が2名、12回が1名であった。以下は、本事業の有効性評価に関わると考えられる聴き取りデータの一部である。

【事例1】「孤立感をあまり感じない」(利用前)⇒「孤立感を少し感じる」(利用中)

- ・夫の育休(3か月)が終了した後、孤立感が増した。
- ・事業を知り合いに勧めたい。
- ・「ご近所さん」が子どもをほめてくれるのがとてもうれしい。

- ・家の中で子どもと遊んでもらいながらお話をしたい。

【事例 2】「孤立感を少し感じる」(利用前)⇒「孤立感を少し感じる」(利用中)

- ・「ご近所さん」が来てくれて、地域の人とつながれてよかった。
- ・コロナ禍やちょっと落ち着いたときには真夏で暑くてまた引きこもりがちになった時期に、「ご近所さん」が来てくれたのはよかった。
- ・事業を知り合いに勧めたい。
- ・毎回子どものことをかわいいと言ってくれるので、こんなかわいい子を育てているんだぞと自己肯定感があがった。

【事例 3】「孤立感を少し感じる」(利用前)⇒「孤立感を少し感じる」(利用中)

- ・地域の情報を教えてもらえるのがとてもうれしい。
- ・提供品をもらえることもあるので知り合いにも一応勧めたい。ただ、最初どんな人が来てくれるのか不安があったので、積極的には勧めない。
- ・「ご近所さん」は保育士資格を持っており本当によかった。とにかく子どもを具体的にほめてくれるし、子どもも「ご近所さん」が大好きだと思う。私は、この時間を「ご近所さん」と子どもと私で、楽しい子育てを共有する時間ととらえ、お互いに幸せを感じる時間にしたい。

【事例 4】孤立感「少し感じる」(利用前)⇒「少し感じる」(利用中)

- ・コロナ禍もあって初めの頃はあまり外にも出られず、人と話もできなかったが、「ご近所さん」が来てくれて気が紛れた。
- ・「ご近所さん」に付き添ってもらって外出ができればよいと思う。

【事例 5】孤立感「どちらでもない」(利用前)⇒「あまり感じない」(利用中)

- ・コロナ禍で制限が多く子育ても大変だった。
- ・子育て情報を活用して週 1、2 回児童館に行っている。
- ・ミルクや哺乳瓶など子どもグッズはよかった。おむつはすぐに大きくなるのでサイズが合わなくなる。
- ・毎回 10 分程度の訪問。手作りおもちゃをくれてうれしかった。

【事例 6】孤立感「感じる」(利用前)⇒「少し感じる」(利用中)

- ・児童館に行っている。離乳食が進まない頃にスタッフや他のママたちに気にしないでよいと言われ自分も気にしないようにした。子育ての話は児童館スタッフや他のママ、「ご近所さん」などとしている。夫も育児参加してくれる。
- ・「ご近所さん」に子どものことを褒められるのはうれしい。

【事例 7】孤立感「あまり感じない」(利用前)⇒「あまり感じない」(利用中)

- ・雨の日や体調がすぐれないときなどの保育園の送迎がきつかった。一人で 2 人

の子を見なければいけないのがつらい。夫は仕事で帰宅が遅く、早い時でも19時以降。義父母も仕事をしているのであまり頼めない。

【事例8】 孤立感「少し感じる」(利用前)⇒「少し感じる」(利用中)

- ・夫は仕事で帰りが遅く疲れて帰ってくるが面倒も時々はみてくれる。可愛がってくれる。
- ・天気の良い時に保育園や児童館その他に散歩に出かける。
- ・子育て支援団体のイベントにも参加して楽しく過ごせた。
- ・様々な情報収集手段があると行き場所があると分かり気持ちが楽になる。
- ・可愛すぎて保育園に預けるのは見合わせた。幼稚園を検討。習い事などもどんなものがよいか「ご近所さん」に聞いたりしている。

【事例9】 孤立感「どちらでもない」(利用前)⇒「どちらでもない」(利用中)

⇒「あまり感じない」(インタビュー調査時)

- ・上の子たちの友達関係や自分の友人などがいるので孤独感はない。
- ・「ご近所さん」は同じ地域の方なのでぎくばらんに話ができるし、子育てや自分のことも話せる。
- ・いくつかメニューがあって一緒に外出など選択できるとよい。
- ・訪問時間は10分程度。時間はちょうどよい。「ご近所さん」の子育て経験談を聞かせてもらい参考になった。親の世代と自分たちの子育ての中間世代の話聞くことができてよかった。
- ・事業を友人や知り合いにぜひ勧めたい。

【事例10】 孤立感「少し感じる」(利用前)⇒「少し感じる」(利用中)

⇒「少し感じる」(終了時) ⇒「あまり感じない」(インタビュー調査時)

- ・夫の子育てへの参加はあまりなく、ほぼワンオペ状態。ワンオペで大変なのは自分が体調を崩したときに子を見てくれる人がいないこと。外にも行けないので家の中で過ごすしかない。今は諦めている。
- ・今は児童館や子育てサークルに行っているので孤独感や孤立感はあまりない。
- ・地域のイベントや子育ての情報をいろいろもらえたのはよかった。役に立った。
- ・訪問時間は10～15分程度。お子さんのいる「ご近所さん」だったので経験談を聞いてよかった。
- ・発育(離乳食のこと)で相談した時は話を聞いてもらって気持ちが楽になった。
- ・事業を友人や知り合いに勧めたいが、まわりに対象月齢の子がいない。

【事例11】 孤立感「感じる」(利用前)⇒「感じる」(利用中)

- ・前よりふさぎ込みは少なくなった。
- ・初回よりは孤立・孤独感は少ない。
- ・近くに身内や親しい人がいない。育児などの話ができるママ友がいない。

- ・子育て広場で話をするママとどうしたらもう一步進んだ関係がつかれるのか？
- ・大学の友人と電話などで子育ての話などをする。
- ・子育て情報は役に立っている。ママ広場に申し込んでオンライン相談に参加した。オンラインで他のママたちの話も聞けてよかった。
- ・「ご近所さん」のみの訪問はまだ1回だが、子育てや自分の話を聞いてくれる。訪問時間は10～15分。
- ・事業を友人や知り合いに勧めたい。

【事例12】 孤立感「少し感じる」(利用前)⇒「少し感じる」(利用中)

⇒「あまり感じない」(インタビュー調査時)

- ・夫の育児参加はゼロに近い。先日もミルクの作り方を忘れていて間違えた。大丈夫か？もうちょっと手伝ってほしい。
- ・以前に比べ行動範囲が広がっているところへ行けるようになったので、孤独感はあまり感じなくなった。
- ・子育て情報は役に立っている。子育てサークルにも数回行った。児童館は行こうと思いつつまだ行けていない。これから行こうと思う。
- ・毎回滞在は2～3分。悩みや困っていることを話せる感じではなかった。「(お子さん) どうですか？」で終わってしまう。もう少し長く話をしてくれると育児の悩みなども話せたかもしれない。
- ・「ご近所さん」が来てくれるのはうれしいので、知人や友人に事業を勧めたい。

【事例13】 孤立感「少し感じる」(利用前)⇒「少し感じる」(利用中)

- ・出産後里帰りしていた実家では孤独や孤立感はなかった。自宅に戻ってから夫が仕事へ行き一人になり急に孤独感を感じた。子どもが一步家を出たとたんぎんぎん泣き、どこにも出かけられず、なおさら孤独だった。「ご近所さん」が来てくれたのがきっかけで子が泣いても児童館に行ってみようと思ひ、思い切っていくことができ自信になった。児童館に通えるようになったら子も泣かなくなった。私の気持ちの問題だったのかもと思った。
- ・事業を知人や友人に勧めたい。月1回、家に来てもらえるのがうれしい。楽しみにしていた。児童館の先生と話すのとは違って、家に来てもらっているのでより自分の内面を話せるような気がする。
- ・「ご近所さん」とは、小学校の先生に年賀状を出すような感じにつながり続けた。子の成長を報告したい。近所で会ったときに声をかけ合う関係でいたい。

【事例14】 孤立感「あまり感じない」(利用前)⇒「少し感じる」(利用中)

⇒「感じない」(インタビュー調査時)

- ・子の月齢が小さい頃は孤立感が少しあった気がする。そのころ「ご近所さん」に来てもらえたのはよかった。

- ・月齢が上がると児童館など少し遠出のおでかけも友人とするようになり孤立感はなくなったと思う。「ご近所さん」と会うのは癒しだった。
- ・「ご近所さん」が子の成長をいつもほめてくれるのでうれしかった。
- ・事業を友人や知人に勧めたい。
- ・ご近所でたまにすれ違うようなつながりは持ち続けたい。ただ「ご近所さん」の住所がたまにすれ違うほどの距離でないのが残念。もう会えないという寂しさはある。LINE 交換はちょっと勇気がいる。
- ・(これからファミサポを利用したいので)「ご近所さん」がファミサポの提供会だと安心してお願いできるからいいなあと思う。

4 「ご近所さん」調査 (アンケート)

(1)調査票

今回、「ご近所さん」側の視点から利用者との関りの状況を把握するため、「ご近所さん」を対象としたアンケートを Google フォームにより令和 6 年 2 月に追加実施した。A 地区 21 名、B 地区 48 名の計 69 名に LINE 配信により調査を依頼し、34 名(回答率 49.3%)から回答を得た。回答者の地区別人数については、ID 等識別する質問項目を設けていないため不明である。また、自由回答の質問への回答については、内容的に重複する回答を再掲せず整理した。

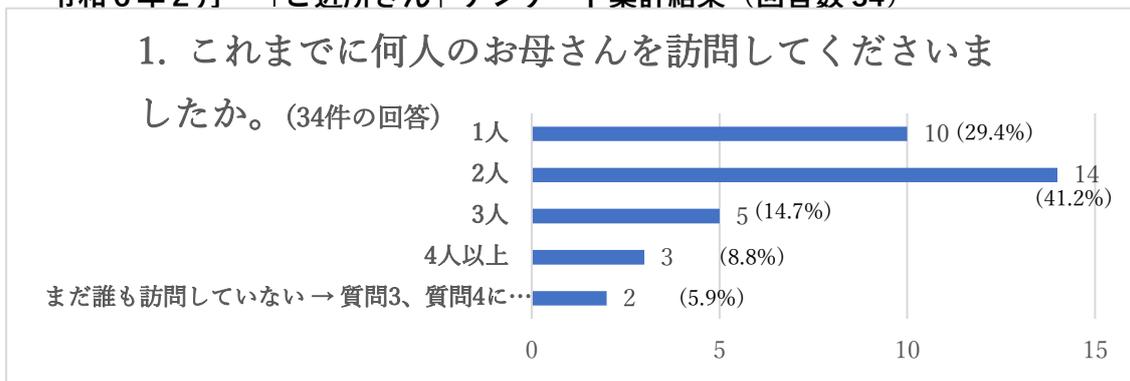
(2)倫理的配慮

利用者調査同様、アンケート入力フォームにおいて、取得した調査データについては、個人・団体・地域が特定されない形式で取り扱い、東京都(以下、「都」という。)・区・社協において子育て支援施策の検討に役立てること、回答データ・分析結果等について報告書を都へ提出するとともに、関係学会等での発表に使用する場合があること等について、回答後も随時調査協力を撤回することができる旨を明示して利用者の承諾を得た。

(3)調査結果

56 名の「ご近所さん」に依頼し、34 名から回答を得た(回答率 60.7%)。

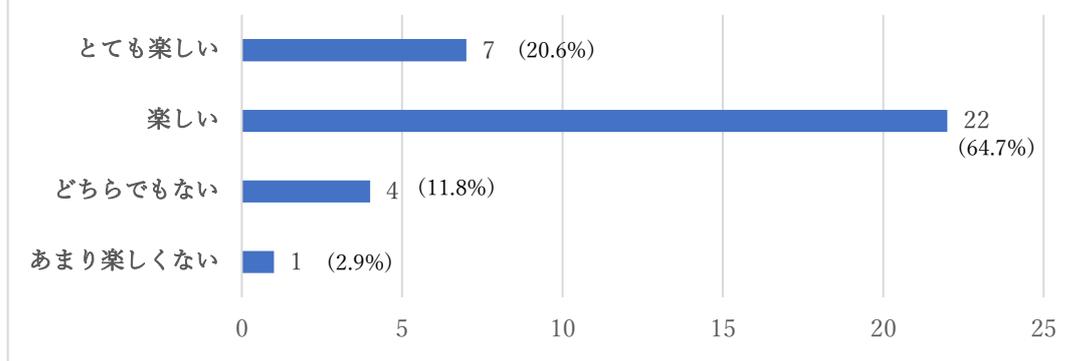
令和 6 年 2 月 「ご近所さん」アンケート集計結果 (回答数 34)



2. 訪問をしたことがある方にお聞きします。

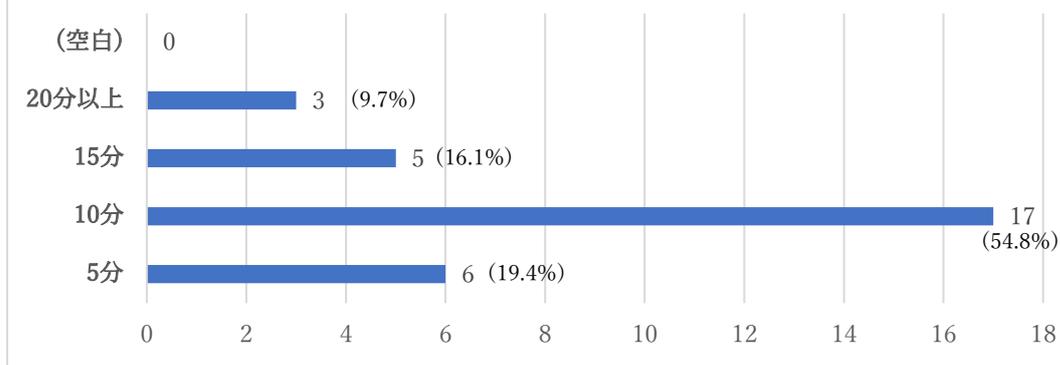
2-1. 訪問活動は楽しいですか？

(34件の回答)



2-2. 訪問時間は何分ぐらいですか？

(31件の回答)



2-3. 利用者のお母さんとはどんなお話をされますか？(自由記載)

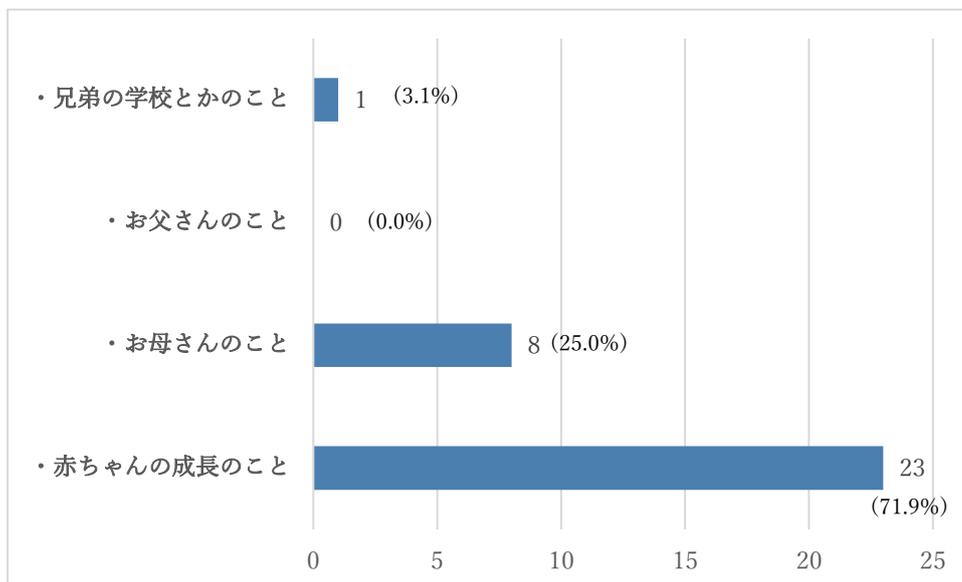
(32件の回答)

- ・地域のイベント、保育園のこと。
- ・赤ちゃんのミルクや食事の様子、夜泣き、普段の生活、お母さんの体調のこと。
- ・1ヶ月の間のお母様や赤ちゃん、ご兄弟の様子、児童館などの様子、日々のこと。
- ・周りでウイルスが流行っているなどの情報。
- ・今困っていること、悩んでいること。
- ・赤ちゃんの成長（ハイハイ、つかまり立ちができたとか）のこと。

- ・お母さん不安や愚痴、お仕事ある方は悩み。
- ・お子さんの月齢から楽しめそうなあそび、玩具のこと。
- ・お子様の睡眠の時間、お母さんの休息の時間、お散歩の様子。
- ・健診の情報、離乳食のこと。
- ・日常の出来事、保育園、小学校のこと、自身の子育て経験談。

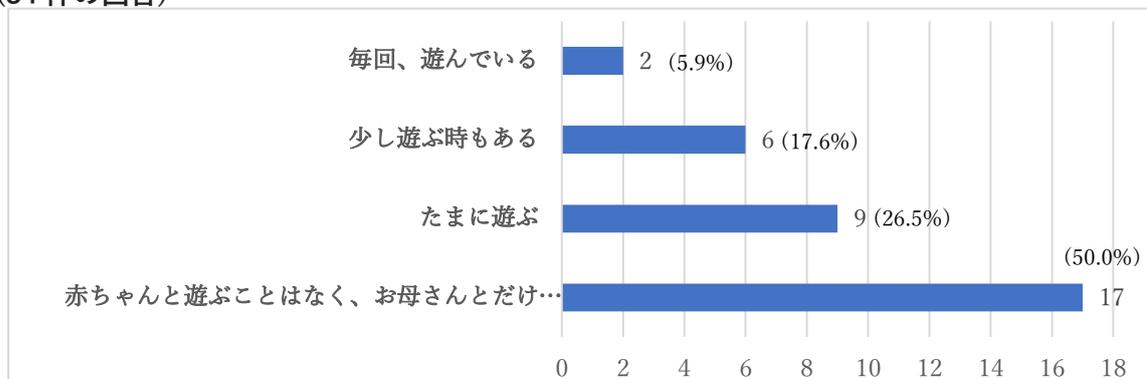
2-4. 利用者のお母さんとはどんな話題で盛り上がりますか？

(複数回答可) (32件の回答)



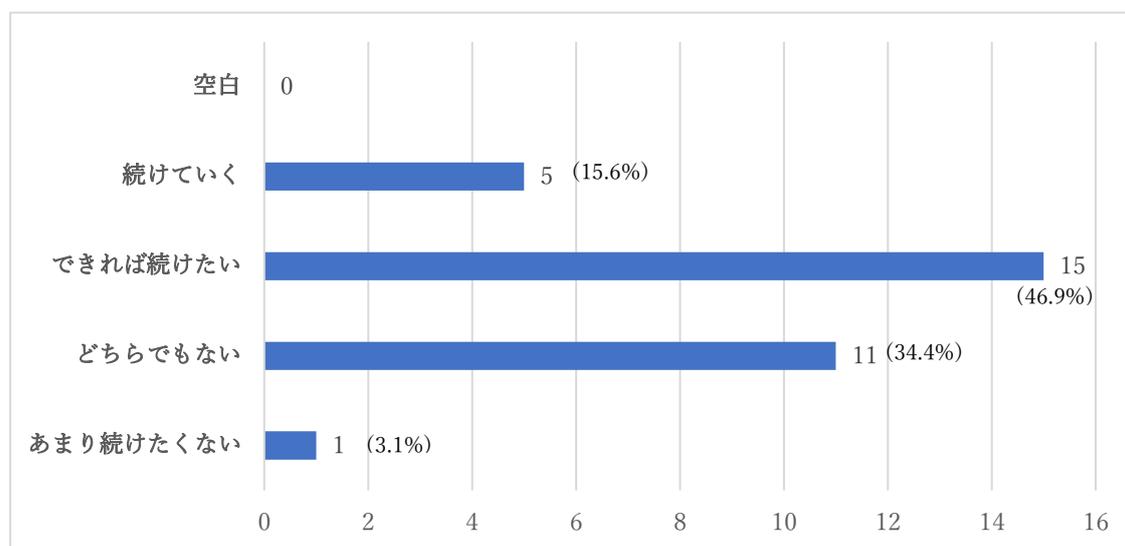
2-5. 訪問時に、赤ちゃんとは少し遊んだりすることはありますか？

(34件の回答)



2-6. 事業が終了した後も、利用者さんにご近所付き合いを続け

ていきたいと思えますか。(32件の回答)



2-7. 訪問活動をしていて困ったことはありましたか。(27件の回答)

・特になが、こちらから求めないと、お母さんは赤ちゃんに会わせなげゃとは思っていないように感じる。何回かに一回は「寝ちゃってるかな？」と声かけして、顔を見せてもらっている。赤ちゃんの成長についてはデリケートなのでこちらからあまり話をふらない。

・困っていることが医学的だったとき。

・社協経由の連絡だったので訪問の確認ができずアポを忘れられてしまった。直接連絡できるようになり解決。終了月が明確でなく、終了月翌月のアポを取ってしまっていた。

社協からのフォローがあると有難いです。

・お留守だったとき。

・訪問日が月末に近い時はお知らせがどれも古い情報になってしまうため、お渡しするもの

がないことがある。

・困ったというほどでもありませんが、ママとのお話をそのまま報告書に記載していますが、ママにお断りした方がよかったのかなと思うことがありました。社協の方がどうして知っているの？ということもあったのかな、と。

・お留守の時、少し遠い場所の方を担当した時は移動が少し面倒でした。

・長居しないように気にしている。

・インターホン鳴らしてもなかなか気がつかなかったこともありました。

・利用者さんが私を気遣って下さっているのか遠慮なさっているのか判断できない時がたまにあり困りました。

2-8. 利用者との関係づくりで工夫していることはありますか。

(30 件の回答)

・自分のこどもが赤ちゃんの頃を思いだし、母親の立場にたって共感するようにする

・手土産を持っていく。子ども食堂のカレー。・次回の訪問日をメモして渡しています。

・明るい挨拶、明るい声のトーン。

・お母さんに話を振るようにしている。出来るだけ楽しく、共感に心がけている。

・ママが話したい話に対して耳をかたむける。そのことに対して多く質問をする。

・お母さまの気持ちを1番に汲むようにする。

・お母さんを下のお名前と呼ぶ。

・お母様がどんなことを望んでいるかなどを聞いてさりげなく寄り添えるように

心がけているつもりです。あとは会った時の雰囲気や様子を察知できるとよい思っています。赤ちゃんのお名前、ご兄弟のお名前を覚えておくなどです。

- ・質問してばかりだと答えづらさもあるかと思い自分のことも話したりしている。

- ・お母さんの体調も伺うようにしています。

- ・話題を考えておく。・お母さんのことを気にかけるようにしている。

- ・話を聞き、共感すること。

- ・地域の子育て支援についてのチラシなど調べたりして情報を伝える。

- ・訪問の際に、ママのほしい情報を聞き用意する。上のお子さん達にも役立つだろう情報を用意する。

- ・お母さんの様子を見て、訪問時間の長さを調整しています。

- ・区報や図書館のお子さん対象のイベント情報、地域の情報をお持ちして会話の糸口にします。

- ・誰に対しても、何時でもですが、否定的な言葉を使わない。

- ・お話をしっかり聞くこと。近所の話などを振って、地元の繋がりを感じていただけるようにすること。

- ・利用者さんの話をうなずきながら最後まで聞いています。

- ・和み。楽しく接する。上から目線にならないようにしました。

- ・提供品の置場所を増やしてほしい。・もっとサポーターが増えると良い

- ・産前からの支援。

・お母さんが望むことをアンケートなどで調べて教えて欲しい。産前から関わる
ことについてはよくわからないが、求めている気がする。産前と産後でお母さん
の考えや状況はガラッと変わると思う。

・もう少し広範囲で実施して頂き負担なく土地勘のある場所で参加できるなら続け
たい。

・毎回プレゼントをとりにいくのがとても大変。まとめて、初回にあずけてほしい。

・こういった事業が今後も続いていくことで、地域としてのつながりも広がってい
くのではと思います。長く続いていくことをのぞみます。

・利用者さんの誕生日(訪問終了月)など最初にデータとしていただきたい。

・赤ちゃんの名前などきちんと教えてもらいたい。

・産前からかかわるには内容によりますが 頼る方がいらっしやらない場合など
なにか力になれることがあれば、深入りしない程度で見守りできるといいこともあ
ると思います。が、助産師ではないので難しいこともあるかな?とも思います。

支援の必要性がどのくらいなのか? もう少し必要性の高い方が眠っているような
気がします。

・利用者さんにより開始の月齢が違うため、お渡しするものは訪問回数ではなく
月齢別になっていると選びやすいと思った。

・この活動がいろいろな場所で広がることを希望します。ただ、ご近所の人ではな
い方に訪問してほしいというママもいるのではとも思います。すぐくご近所でなく

ても定期的な訪問や少し広い地域の情報提供という形もあるのかなとも思います。

- ・とても良い取組みだと思しますので、ぜひ続けていただきたいです。

- ・多くの人利用→仕組みから自然とやわらかい当たり前のつながりになっていくように協力しますので、これからもぜひ事業を続けてください！

- ・地域の高齢者や施設等を利用している高齢者が訪問に行くことで地域共生社会が成り立つと思う。(高齢者の男女は問わない)

- ・お約束が月の後半のため、チラシなど終わっている行事などあり、可能であれば次の月の分などあれば助かります。どうぞよろしくお願い致します。

- ・利用者さんの声や感想をいただければ、励みにも振り返りや反省にもなります。

厳しいご意見であっても、今後の活動にいかせるかと思えます。

- ・産前からの関わりは、初産、経産にかかわらず、お母さんたちの支えになると思えます。ぜひ、取り入れていただきたいです。自治会と連携を取って、回覧板にサポーター募集のチラシを入れたり、自治会ごとにミニ説明会を開くなどして、ご近所さん事業の周知をするのはどうでしょうか。各自治会には婦人会もあるはずですので、婦人会の方達にご協力いただくのも良いかと思えます。

- ・今は時間的に自分に余裕がないので時間ができたらまた再開したいと思えます。

- ・現在はパートが忙しくなってしまう活動できておりませんが、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

- ・プレゼントがもう少しあればよいなと・・・

・難しいとは思いますが土曜日も訪問枠に入れていただけると、育休復帰された

方なども都合合わせやすいかと思えます。

以下、調査結果の検討に基づいて、本事業の考察・評価を順次行いたい。

5 利用者の孤立防止及び地域づくりへの有効性

(1) 本事業における利用者の孤立防止等への有効性

① 有効性評価の基本的視点

児童虐待につながる要因は、少子高齢化や核家族化による養育者の育児知識の減少、地域とのつながりの希薄化による育児不安の増大や親族・近隣からの疎遠化・孤立化、また貧困といった経済的要因や家庭不和、狭隘・劣悪な住環境等多様な要因が指摘されている。このような養育者側の要因のほか、子ども側の要因として、望まれない出生、低体重や疾病を抱えての出生、そして障害等による「育てにくさ」等の影響も指摘されている。これらの多様な要因が複雑に絡み合い、虐待の発生に至ると考えられる(花野 2000)。その中でも養育者の「社会的孤立」を重視して、孤立している養育者を早期に発見し、支えていくことの重要性を指摘する先行研究は多い(花野 2000、鈴木 2019、谷野・鈴井 2014、財団法人こども未来財団 2007)。また石田(2021:121)は、育児期の母親への聴き取り調査から、「子育て中に生じる孤独感や自己肯定感の低下の原因として」、身体や生活に関する「産前産後の環境変化」、産前に築かれた人間関係に関する「既存の関係の無効化と関係形成の困難」、「『子育ては幸せなもの』という幸せイデオロギー」や「母親は子育てするのが当たり前」といった「子育て規範の存在」の3つをあげている。

また、被虐待児の年齢について笹川(2019:33)は、2019年8月に公表された「社会保障審議会児童部会児童虐待等要保護事例の検証に関する専門員会」による第15次報告に言及している。それによると、分析対象となった50事例52人のうち、「0歳児が28例28人(53.8%)と最も多く、うち月齢0か月児は14例14人(50.0%)と高い割合であり、乳児であること自体が高いリスク」と述べている。そして、奈良県が公表した2012・13年に奈良県こども家庭相談センター(児童相談所)と県内市町村における要保護児童対策地域協議会の虐待事例調査によれば、被虐待児童数は4,045人、「年齢別では、0～6歳は2,118人(52.4%)」で、「乳幼児が半数以上であり、年齢別では0歳児が373(9.2%)と最も多かった。」(笹川 2019:34)大田区においても、0歳から3歳までの被虐待件数が336件となっており、全体で最も多い31.5%を占めている(2021)。石田(2021:115)は、「新しい環境への不適応により生じる精神的な不健康や孤独感は、自尊心感情や自己受容の低下につながり、人びとを精神的に追い込んでゆく」ことを指摘し、「新生児誕生後の数年間は、親のみならず、子どもにとっても非常に重要な時期」であると述べている。以上のことから、本事業の対象を0歳児に設定し、児童虐待の予防的

支援の有効性を評価する主要な指標として、「養育者の孤立感」を取り上げた。

なお、A 地区と B 地区では利用申込率に有意と思われる差が見られた。経済的な格差や学歴、養育者の年齢差、対象児以外の子どもの数、地元出身者が相対的に多く実家が比較的近い等の事情が、子育て関連情報への反応性に影響を与えている可能性がある。また、利用者からの口コミによる利用希望数の差異もみられることから、コミュニティのあり方の差異による影響も考えられる。この点の詳細な分析は本報告書ではできないが、申込率の向上へ向けて、地域特性に応じた周知方法や利用の勧奨方法を工夫する必要があることを示唆する。

② アンケート結果の評価

「孤立感」については、「どちらでもない」～「感じない」を選択した利用者が 55 名(67.1%)、「養育者の健康」については、「ふつう」～「よい」が 76 人(92.7%)、「子育ての楽しさ」については、「少し楽しい」～「楽しい」が 79 人(96.3%)、また「世帯年収」については、B 地区の傾向がより強く反映したと思われ、700 万円以上が 59 世帯(72.0%)とやや高い層が多い印象である。主観的な「暮らし向き」は、「ふつう」が 48 世帯(58.5%)、「ややゆとり」「大変ゆとり」を含めると 66 人(80.5%)となっている。これらの結果から、心理的・社会的健康度が相対的に高い人々が、利用者のボリューム層であることが確認できる。このことは、半面では、生活や子育てに対するリスクがより大きいと思われる心理的・社会的健康度が相対的に低い人々に、本事業が十分に利用されていないのではないかと疑問を生じさせる。この点は今後も引き続き検討していくべき課題である。

つぎに、利用開始前の「孤立感」とその他の項目の相関関係をみる。「暮らし向き」「養育者の健康」「愚痴を聞いてくれる人数」に比較的強い負の相関関係、「子育ての楽しさ」「手助けを頼める人数」「対象児以外の子どもの数」に弱い負の相関関係がみられた(その他の項目が改善していると「孤立感」は減少する傾向)。弱い負の相関関係がみられた項目の中では、「子育ての楽しさ」との相関係数の絶対値が最も大きかった。なお、経済的な生活水準の客観的指標である「世帯年収」とは相関関係がみられなかった。以上の結果からは、主観的指標である暮らしのゆとり感、心身の健康感、子育ての楽しさの度合い、そして愚痴をきいてくれる家族・友人・知人がどれだけいるかが養育者の孤立感を推測する手掛かりになると考えられる。

また、「手助けを頼める人数」との比較で、「愚痴を聞いてくれる人数」にはより強い相関関係が認められた。大都市では、一般的に「愚痴を聞いてくれる人」に比べ、日常的に手助けを求められる親族・友人はいないか、パートナーを含めてもごく少ないと推察され、そのため「孤立感」との相関関係に差がみられたと解される。

心身の不調を尋ねる「養育者の健康」は、「子育ての楽しさ」などと同様、主観的指標という側面も大きい。そして、「愚痴を聞いてくれる人数」も育児不安や心理的ストレスといった主観的指標の改善に影響しているのではないかと推測される。ただし、以上のような相関関係は、「孤立感」に対して必ずしも直線的な因果関係を示すものではないことに留意する必要がある。

さらに、これらの結果から、養育者の心理的な支えとなる社会的関係の構築が、養育者の「孤立感」の軽減に資するものと考えられる。石田(2021:29)は、「当事者とほどよい距離感をもち、なおかつ、同じような悩みを共有してきた人により構成されるNPOは、育児期の母親に『一人ではない』『できないのは自分だけではない』という安心感を与え、孤独感および自己否定感の解消に寄与する」と述べている。パートナーや家族の子育てへの寄与度など、「孤立感」を軽減させる要因は多様であると考えられる。しかし、「ご近所さん」との直接的な関係性ばかりではなく、本事業を通じて養育者に提供された子育てサークル等の社会資源の情報が、これらの社会資源の利用につながり、養育者の「孤立感」の軽減に寄与していることが示唆される。

③本事業の孤立防止等への有効性

つぎに、アンケート結果の分析をふまえて、インタビュー調査で得られた聴き取りデータも合わせ、本事業の孤立防止等の有効性を検討する。

終了時アンケートの回答が得られた同一利用者の39事例について、利用開始前アンケート、利用中及び終了時アンケートにおける利用者の「孤立感」の点数の平均値では、利用前が3.00、利用中が2.90と改善がみられた。一方で、終了時アンケートでは2.95と利用前を上回ることはないが、利用中よりやや悪化している。利用開始後の点数はいずれも、3（どちらでもない）を上回り、利用前と比較して改善傾向を示している。また、事例数とその比率でみると、利用前と利用中又は終了時との比較では、改善が25事例・30.5%、変化なしが40事例・48.8%を占め、悪化は17事例・20.7%にすぎない。全体としてみれば、「孤立感」を「1 感じない」「2 あまり感じない」「3 どちらでもない」が選択された事例は55事例、67.1%を占めており、本事業が「孤立感」の軽減に一定の寄与をしていると解される。

一方、本事業のアンケートの設計では「孤立感」に対する本事業以外の要素の影響を排除できず、本事業の「孤立感」改善への寄与の程度を評価することは困難である。例えば、事例1の「夫の育休が終了した後、孤立感が増した」、事例7・8の「夫が仕事で帰宅が遅い」「一人で二人の子を見なければいけないのがつらい」「夫が育児参加してくれる」というような家族関係、本事業利用前からの親族・友人や地域との関係性及びこの3年間のコロナ禍に関連した影響が「孤立感」を変動させているのではないかと考えられる。さらに、対象児の成長による変化や疾病・傷害など、子ども側の「育てにくさ」といった要素も影響している可能性がある。そのような限界を踏まえたうえで、インタビューによって得られた聴き取りデータとあわせて検討してみたい。

聴き取りデータへのコーディングからは、先行研究等から想定したように、本事業における「『ご近所さん』との直接的関係の形成」及び「『ご近所さん』による情報提供を契機とした社会関係の形成」という二つの概念的カテゴリーが生成された。この二つの概念的カテゴリーに対応する聴き取りデータを下表に示す。

「ご近所さん」等と利用者との関係形成に関わる聴き取りデータ

	利用者インタビューによって得られ聴き取りデータ
<p>「ご近所さん」との直接的関係の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ご近所さん」が来てくれて地域の人とつながれてよかった。 ・コロナ禍やちょっと落ち着いたときには真夏で暑くてまた引きこもりがちになった時期に「ご近所さん」が来てくれたのはよかった。 ・この時間を「ご近所さん」と子どもと私で、楽しい子育てを共有する時間ととらえ、お互いに幸せを感じる時間にしたい。 ・コロナ禍もあって初めの頃はあまり外にも出られず、人と話もできなかったが、「ご近所さん」が来てくれて気が紛れた。 ・習い事などもどんなものがよいか「ご近所さん」に聞いたりしている。 ・「ご近所さん」は同じ地域の方なのでざっくばらんに話ができるし子育てや自分のことも話せる。 ・「ご近所さん」に相談したときは話を聞いてもらって気持ちが楽になった。 ・月1回「ご近所さん」に家に来てもらえるのがうれしい。楽しみにしていた。児童館の先生と違って家に来てもらっているのでより自分の内面を話せるような気がする。 ・子の月齢が小さい頃は孤立感が少しあった気がする。そのころ「ご近所さん」に来てもらえたのはよかった。 ・「ご近所さん」と会うのは癒しだった。子の成長をいつもほめてくれるのでうれしかった。
<p>「ご近所さん」による情報提供を契機とした社会関係の形成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報を教えてもらえるのがとてもうれしい。 ・児童館に行っている。離乳食が進まない頃にスタッフや他のママたちに気にしないでよいと言われ自分も気にしないようにした。子育ての話は児童館スタッフや他のママ、「ご近所さん」などとしている。 ・天気の良い時に保育園や児童館その他に散歩に出かける。 ・子育て支援団体のイベントにも参加して楽しく過ごせた。 ・様々な情報収集手段があると行き場所があると分かり気持ちが楽になる。 ・今は児童館や子育てサークルに行っている。地域のイベントや子育ての情報ももらったのはよかった。 ・子育て情報は役に立っている。ママ広場に申し込んでオンライン相談に参加した。オンラインで他のママたちの話も聞いてよかった。 ・子育て情報は役に立っている。子育てサークルにも数回行った。 ・「ご近所さん」が来てくれたのがきっかけで子が泣いても児童館に行ってみようと思い、思い切っていくことができ自信になった。

これらの聴き取りデータからは、「ご近所さん」との良好な関係の形成そのもの、また形成された良好な関係性をとおして、子育てに関係する地域の施設・団体・サークル等の社会資源とのつながりが生まれ、利用者の社会関係が豊かになっていることがうかがえる。したがって、アンケート結果から示唆された事業効果をあわせて考えた場合、本事業の利用が

利用者の孤立感の軽減に寄与していると解される。

また、「毎回子どものことをかわいいと言ってくれるので、こんなかわいい子を育てているんだぞと自己肯定感があがった」「『ご近所さん』に子どものことを褒められるのはうれしい」と、「ご近所さん」との関りが利用者の自己肯定感を高めている事例もみられた。

さらに、「事業を知り合いに勧めたい」「家の中で子どもと遊んでもらいながらお話をしたい」「『ご近所さん』に付き添ってもらって外出ができればよいと思う」「事業の終了後はどうなるか」（調査員から終了後も連絡先の交換も含めて「ご近所さん」とつながり続けてもよい旨回答）との感想を述べる利用者もあり、「ご近所さん」との関係性の発展や継続といった地域づくりにつながる可能性も示唆された。

(2) 本事業における地域づくりへの有効性

① 有効性評価の基本的視点

子育て家庭が地域で孤立することを防止し、虐待等不適切な子の養育の予防につなげていく支援の取組みが本事業の大きな柱の一つである。またそれと並んで、都市化や核家族化の進行により、地域住民の子どもや子育て家庭を見守る機会が減少していることから、地域での見守りや支えをあいの中で安心して子育てできる地域づくりが求められている。そこで、社協のコミュニティに働きかけるソーシャルワーク実践の特性を活かし、住民参加と「みんなで子育て」する地域文化を醸成し、定着させていくことがもう一つの本事業の大きな柱である。

この観点から、「ご近所さん」への満足度（利用中・終了時）や「ご近所さん」に「悩みを相談する(した)か」（利用中・終了時）、事業終了後も「『ご近所さん』とご近所づきあいを続けていきたいか」（終了時）、という問いを利用者アンケートに設定した。また、本報告書作成にあたり、「ご近所さん」へのアンケートを追加的に実施し、利用者とのご近所づきあいの継続の意向等について回答を求めることとした。さらに、利用者が「ご近所さん」との交流を継続しているかどうか等を調査するため終了後1年後アンケートを予定しているが、本報告書作成時点では未実施のため、本報告書では検討できない。

さらに、「ご近所さん」へのアンケート項目のうち、今後の地域づくりに寄与すると考えられる項目として、「訪問活動は楽しいか」、「利用者にご近所付き合いを続けていきたいか」を取り上げたい。

したがって、本事業の「地域づくり」の側面からの評価にあたっては、利用者側の「満足度」「相談」「関係継続の意思」、及び「ご近所さん」側の「訪問の楽しさ」

「関係継続の意思」を基本的視点として、以上のアンケートへの回答及び聞き取りデータをもとに検討していきたい。

② アンケート結果の評価

「満足度」については、「満足している」を選択した利用者が 82 事例中 63 事例(77%)、「すこし満足している」が 9 事例(11%)、合計すると 72 事例(87.8%)と高い満足度を示している。「相談」は、「はい」を選択した事例が 63 事例(76.8%)とこちら

も多くの利用者が「ご近所さん」を相談相手としたことがうかがえる。さらに、終了時アンケート 39 事例にて「相談」について「はい」を選択した事例中、ご近所さんとの関係を「続けていく」との回答は 8 事例(23.5%)、「できれば続けたい」は 20 事例(58.8%)、合計で 28 事例(82.3%)と事業終了後も「ご近所さん」との関係継続を望む利用者が圧倒的である。

一方、「ご近所さん」へのアンケート(34 事例)では、「訪問活動の楽しさ」について、「とても楽しい」との回答は 34 事例中 7 事例(20.6%)、「楽しい」が 22 事例(64.7%)、合計 29 事例(85.3%)と良好で、訪問活動へのモチベーションを高めていることがうかがえる。また利用者との関係を「続けていく」との回答は 32 事例中 5 事例(15.6%)、「できれば続けたい」は 15 事例(46.9%)、合計で 20 事例(62.5%)であった。「どちらでもない」は 11 事例(34.4%)あったが、「あまり続けたくない」は 1 事例(3.1%)に過ぎず、利用者側の「関係継続の意思」には及ばないものの、双方の意思の合致による地域づくりへの可能性が示唆されている。

③ 本事業の地域づくりへの有効性

利用者からの聴き取りデータでは、事業終了後も「子の成長を報告したい。近所で会ったときに声をかけ合う関係でいたい」「ご近所でたまにすれ違うようなつながりは持ち続けたい。ただ『ご近所さん』の住所がたまにすれ違うほどの距離でないのが残念。もう会えないという寂しさはある。」「(これからファミサポを利用したいので)『ご近所さん』がファミサポの提供会員だと安心してお願いできる」との声が聴かれた。

また、民生委員としても活動している「ご近所さん」からは、事業終了の際の訪問時に、「これからはご近所の民生委員として困りごとなどの相談にのりますよ」と利用者へ積極的にアプローチし、継続した関係づくりに取り組んだ事例があった。

本事業における「地域づくり」とは、子育て世帯への見守りや支えあいの活動に対する地域住民の参加を促進し、子育て世帯を孤立させないよう近隣住民との良好な関係性を育み、安心して子育てできる地域を創造していくことである。その意味で、「ご近所さん」は本事業の第 2 の利用者ともいえる。

利用者及び「ご近所さん」へのアンケート及び聴き取りデータは、本事業に対する高い満足度や活動の楽しさ、関係継続の意思の存在を示していることから、本事業は地域づくりに対しても有効な手法であると考えられる。

さらに、令和 5 年 11 月 19 日(日)に実施したサポーター・利用者交流会「ご近所さんキッチンカフェ」(保育付き)はとりわけ好評であった。参加者は少ないものの、参加者アンケートをみると、「良かった」が 88.9%、「まあ良かった」が 11.1%、で 100%を占めた。また良かったこととして、「利用者とサポーターが交流できた」が 88.9%、「保育付」が同じく 88.9%であった。参加者全員が、今後もサポーター・利用者交流会に参加したいと回答している。また今後のサポーター・利用者交流会に望む内容として、子育て講座と交流の時間、クッキングを組み合わせるがそれぞれ 66.7%、両親参加の交流会が 55.6%となっている。自由記述では、「ほどよい人数で楽しくお話し

て交流できた」「利用者同士などの横のつながりができてよかった」「リフレッシュできた」「保育付きで気兼ねなく参加できた」等の肯定的な声が多く聴かれた。ひとりでも多くの利用者・「ご近所さん」に参加いただけるよう、開催場所や日時、内容等ニーズに合った工夫を加えながらサポーター・利用者交流会を本事業の一部として継続的に行うことにより、本事業の効果は一層高まることが期待される。

6 利用者と地域住民（「ご近所さん」）との関係構築

(1) 関係構築の取組みと評価

本事業においては、良好な関係構築への取組みとして、社協職員による利用者宅への初回訪問同行、Web を通じた訪問記録の提出及び交流会の定期開催や LINE を活用して社協職員と利用者・「ご近所さん」相互のコミュニケーション機会を確保した。これにより、保育士資格や子育て経験を有する社協職員による相談・助言及び「ご近所さん」同士のピア・サポートの体制を構築した。さらに、専門家・学識者を招き、利用者との円滑なコミュニケーション方法や 0 歳児の養育者の特性及び支援の視点を学ぶ研修機会を「ご近所さん」に提供した。ただし、交流会や研修会の参加人数は、「ご近所さん」の登録総数に比べ少数にとどまった。開催日時やテーマなど、ニーズに合った工夫を加えるとともに、別途研修会の録画を配信するなどの対応を検討する必要があると思われる。

利用者側の「満足度」「相談」「関係継続の意思」及び「ご近所さん」側の「訪問の楽しさ」「関係継続の意思」に関するアンケート及びインタビューの結果から、これらの取組みにより、利用者と地域住民である「ご近所さん」との関係を概ね良好に形成することができたと考えられる。

(2) 事例からみる関係構築における課題

一方、関係構築という点で課題を残した事例も散見された。以下、事例を具体的に見ていきたい。

利用者の転居等の理由により終了となった事例の他、利用者と「ご近所さん」の関係形成がうまくいかず、利用者からの申し出により利用中止に至った事例が 1 事例あった。この事例では、2 回目の訪問終了後、利用辞退に至ったが、終了後アンケートの自由記述では、「現在の『ご近所さんサポーター』に満足していない」「相談に乗ってくれる感じではなく、早く帰りたい雰囲気もあり相談できなかった」「サポーターさんの教育をもう少しされた方がよい」と記されていた。初回訪問の聴き取りでは、上の子の幼稚園がコロナ禍で休止となり閉塞感を感じていて、孤立・孤独感を感じていたように見受けられると同行した社協職員から報告されている。また、利用者が連絡用 LINE から突然退出し、理由不明のまま利用中止に至った事例も 1 件あった。

「ご近所さん」側からのアクションで活動中止となった他の事例では、2 回目の訪問時、利用者が出てこなかったが、社協から利用者を確認したところ、約束の時間には在宅していたしインターフォンの履歴にも残っていないとのことであった。訪問した「ご近所さん」にはわだかまりが残り、その後社協との連絡手段である LINE 退出に至った。

一対一の対面での訪問活動において、偶発的なトラブルや行き違いが発生することはある程度避けられないともいえる。一方で、このような事例が発生した場合、当事者からの聴き取りなどをもとに、できるかぎり原因の分析や活動上の工夫を重ねていくことが重要である。例えばこれらの事例では、利用者との信頼関係構築へ向けた面接時のポイントや不在時には「訪問のお知らせ」を残す等の工夫、その他注意点をまとめた「活動の手引き」を作成・配布すること、そして活動開始前に「ご近所さん」に口頭でも確認する等の対応が有効と考えられる。

次の事例は、利用終了後ある利用者から寄せられた声である。「『ご近所さん』はとても忙しそうで月1回の訪問があつたりなかったりした。訪問をひとつの拠り所にされている方は悲しい気持ちになってしまうかも。自分は紹介していただいた児童館などでコミュニティが築けていたのでそれほどではなかったが、結局最後の訪問もないままLINEが返ってこなくなってしまう、お礼も言えず少し残念」と。この利用者を担当した「ご近所さん」は、以前から活動報告書をほとんど提出せず、社協から電話による訪問状況の聴き取りを行っていた。この事例では、利用者と「ご近所さん」でLINEを交換しており、訪問日等の調整をしている。「ご近所さん」からは社協に訪問を休むとの連絡が3度あった。他に、利用者への聴き取りで判明した休みが1回ある。いずれも、「ご近所さん」の子の体調不良、自身の用務によるものであった。「ご近所さん」が、仕事や自身の子育て等で多忙なため、安定した訪問活動が困難と思われる事例に関しては、早い段階から「ご近所さん」に交代を促す等の対応をとるべきであったと思われる。社協の重要な役割は、利用者と「ご近所さん」との関係性を良好に展開できるように媒介することである。それによって、利用者・「ご近所さん」双方に安心感をもたらすことができる。社協は、この役割を適切に果たすとともに、活動の楽しさを損なうことなく「ご近所さん」の力量の向上を図ることが大切である。

また、「ご近所さん」が交代した事例が他に数事例あったが、仕事の多忙・転居等利用者との関係に関わらない「ご近所さん」側の事情によるものであった。

(3) 関係構築に有効な訪問頻度と時間

利用終了時アンケートの「適当と思う訪問回数」に回答があった40事例中、「月1回」が37事例、「月2回」が2事例、「その他」（月齢により適当な回数は変化）は1事例であった。訪問頻度として月1回が適当と考える利用者の割合は92.5%と極めて高い。また、「ご近所さん」へのアンケートの（実態として）「訪問時間は何分くらいか」との設問への回答をみると、31事例中、「20分以上」が3事例、「15分」が5事例、「10分」が17事例、「5分」が6事例であった。訪問時間が10分以上の割合は、80.6%に及んでいる。適当な訪問時間は、その時々諸事情で変化すると思われるが、利用者へのインタビューにおいて次のような声が聴かれた。「（担当の「ご近所さん」の）滞在時間は毎回2～3分。悩みや困っていることを話せる感じではなかった。『（お子さん）どうですか』で終わってしまう。もう少し長く話をしてくれると育児の悩みなども話せたかもしれない」と。同じ利用者の、利用前と利用中アンケートの「孤立感」への回答は、ともに「すこし感じる」で変化は見られなかった一方、提供された子育て支援の情報をきっかけに行動範囲が広がり、「孤独感はあまり感じなくなったという。また、「（『ご近所さん』が）来てくれるのはうれしいので友人・知人にも

利用を勧めたい」と語っている。また、複数の利用者から「10分くらいがちょうどよい」との声も聴かれた。

以上から、本事業で設定した月1回の訪問頻度、15分程度の訪問時間は適切であったと考えられる

(4) 産前からの関係構築

産前から「ご近所さん」が関わることへのニーズについて、利用者へのインタビューと「ご近所さん」へのアンケートを行った。利用者からの聴き取りデータは以下のとおりである。

- ・区内に友達がいないので産前から家に来てもらえる知り合いができるのは心強い。
- ・産前も産後と同じように不安なことや分からないことも多いので、お話しできる機会があれば助かる。
- ・人によると思うが、私は産前からの訪問を希望しないと思う。無事に出産できるかハラハラしている時期なのでゆったりしたい。知っている人とだけコミュニケーションをとる方がいい。妊娠期をどういう状態で過ごしたかによって産前から利用したいかどうかは変わると思う。
- ・里帰り出産のため、コロナ禍でもあり早々に実家に行っていた。切迫早産で安静にするよう言われていたし最後まで悪阻がありとても対応できる状態ではなかった。
- ・妊娠中はフルタイムで働いているので対応が厳しい。産休中は里帰りしていたのでタイムラグがない。出産後が一番孤独を感じ、気持ちが沈んで人とのつながりがほしくなった。
- ・私は産後にできない用事を済ませたり赤ちゃんを迎える準備や自分一人の時間を過ごしたかった。感染症を気にする方もいるのでは。一方で、出産の不安を聞いてほしい方やそろえておいた方がよい物、体験談などを産前に聴きたい方もいると思う。

「ご近所さん」(回答数 32)へのアンケート結果をみると、利用者と産前から関わることについて、「とても望ましい」が11人(34.4%)、「望ましい」が12人(37.5%)、「どちらでもない」が8人(25.0%)、「あまり望ましくない」は1人(3.1%)であった。望ましいと考える「ご近所さん」は23人(71.9%)に及んだ。

利用者への聴き取りデータからは、生活や体調等の状況による個人差が大きいものの、産前からの利用に一定のニーズがあることがうかがえる。一方、「ご近所さん」へのアンケート回答データは、自身の出産経験の他、本事業での関りを肯定的にとらえていることを反映していると解される。

これらのことを考慮すると、個別の利用者ニーズに応じるとともに、地域づくりの視点からも、本事業を産前から利用できるように改善することが望ましいと考えられる。

7 関係行政機関と社会福祉協議会との連携ルールの構築と評価

行政のかかわり方だけでは支援が行き届かない場合がある。例えば、養育者から支援を忌避されたり、人員体制など様々な理由から養育者の困りごとや孤立感・不安感を丁寧に

把握することが困難な場合などである。本事業の特性として、子育て用品を持参する地域ボランティアの敷居の低い訪問活動として行うことがポイントのひとつである。近隣住民の目線から区の支援の隙間を埋め、行政施策と社協施策との連携により、支援の取りこぼしをできる限り少なくしていくことが求められる。

このような視点から、区と社協との月1回の定例会において、利用中アンケートの回答、「ご近所さん」からの訪問報告及び社協職員によるモニタリング訪問の情報を検討した。そして、孤立感や子育ての不安感を深めていたり、健康状態の悪化やパートナーの子育てへの非協力によるストレス等、何らかの課題があると思われる事例を中心に、社協から個別事例の報告を行った。それをもとに区への相談状況を確認しつつ、当該機関による対応の必要性や、子の健診時等の機会をとらえて相談につなげるなど、介入方法の検討を積み重ねた。さらに、このような実践の過程において、専門的支援の検討が必要と判断された場合の連携ルールや手法の一般化に取り組んだ。専門的支援の必要性と手法の判断においては、独断に陥らないよう、定例会を構成する区(ソーシャルワーカー、保健師)及び社協職員(社会福祉士、保育士)それぞれの専門性と知見に基づいて合議し、チームとして判断していくことが肝要である。その結果、社協から利用者名簿を区(健康づくり課及び同課を経由し地域健康課、子ども家庭支援センター)へ提供し、区の相談歴との照合や区が実施する健診機会等を活用して保健師から声かけや家庭訪問を行うなど、区によるフォローに関する連携ルールを構築した(別紙 3-1「ご近所さん事業 関係機関支援フロー」、別紙 3-2「ご近所さん事業 利用者名簿」)。

次のケースは、本事業をとおして連携を図った事例である。他区から区内に転入後まもなく、本事業を数か月利用した。その間、乳児を抱え、内縁のパートナーも収入が減少し、生活保護の対象にはならないが生活困窮から民間の食糧支援をたびたび利用していた。また、「ご近所さん」の訪問を通じて、室内が散乱していたり、虐待等子の不適切な養育状況も懸念された。数回の訪問の後、本事業の利用が子の1歳到達で終了したが、社協で実施する他の子育て家庭を対象とした訪問事業(宅食事業)を活用して見守りを継続することとした。同時に、緊急性が認められたことから、ただちに社協の地域福祉コーディネーターと連携しながら、区子ども家庭支援センター及び地域健康課の地区担当保健師と連絡を取り、個別に情報を共有した。さらに定例会においても報告・検討を行い、関係機関が連携・協働した支援体制の構築に着手することができた(事例は個人が特定されないよう本質を損なわない範囲で改変)。

なお、定例会で検討した事例のうち、専門的支援が必要と思われた事例については、既に相談歴があったり、他機関からの情報で把握されていることが多かったことを付言しておく。

8 本事業の総括及び今後の事業構築の方向性

2022(令和4)年6月以降の本モデル事業の本格実施後、区との連携のもと、試行錯誤しながら「地域ぐるみの子育て」の実践を積み重ねた。

また、子育ての地域づくりという視点から、「ご近所さん」と利用者の関係構築がさらに円滑かつ効果的に展開できるよう、交流会や研修会等の工夫を重ね、実績を積み重ねてきた。

これらの実践から、「生まれた命」を地域みんなが祝福し、この地域の一員として向かい入れ、その養育者の子育てを地域で見守ることの大切さを学んだ。まさにこの点にこそ、地域住民である「ご近所さん」が取り組む意義と価値がある。

次に、これまでの検討を踏まえ、今後の本事業の展開の方向性について述べたい。奇しくも本事業を開始した2022(令和4)年6月、「こども基本法」が制定され、2023(令和5)年4月から施行された。同法は、こども施策を総合的かつ強力に推進するための包括的基本法と位置付けられる。同法に基づき、こども施策を総合的に推進するため、2023(令和5)年12月に「こども大綱」が閣議決定された。同大綱によれば、「こども大綱の使命は、常にこどもや若者の最善の利益を第一に考え、こども・若者・子育て支援に関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据え、こどもや若者を権利の主体として認識し、こどもや若者の視点で、こどもや若者を取り巻くあらゆる環境を視野に入れ、こどもや若者の権利を保障し、誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しすることにより、『こどもまんなか社会』を実現していくことである」とあり、さらに『こどもまんなか社会』とは、全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会である」とされる（「こども大綱」7-8）。

大田区版地域共生社会は、このような「こどもまんなか社会」の実現を包摂するものである。このことを踏まえ、区と社協はそれぞれの特性を活かしながら、互いの機能の強みを生かした役割分担のもと、令和6年度以降の本事業の再構築を図ることが求められる。その方向性は以下のとおりである。

不適切な養育、とりわけ児童虐待は子の生命や健全な成長を脅かし、子どもの権利を著しく侵害するものである。このような事態には専門機関による迅速な権利侵害からの回復を図る権利擁護支援が求められることから、区全域を対象に、区の専門機関の主導のもとに、社協、民生委員・児童委員など多様な主体からなる地域の力と一体となって、誰ひとり取りこぼさない地域の見守り活動をはじめ、療育を含め専門的な支援につながるシームレスな支援を展開していく必要がある。したがって、その基礎となる子どもの権利擁護及び虐待予防の視点を重視した事業を、全区的かつ早期に、また総合的に展開していくことが区に求められている。

また、本事業の実践の過程で、利用者から『ご近所さん』は同じ地域の方なのでざっくばらんに話ができるし、子育てや自分のことも話せる』『ご近所さん』が来てくれて、地域の人とつながれてよかった」「発育（離乳食のこと）で相談した時は話を聞いてもらって気持ち楽になった』『ご近所さん』と子どもと私で、楽しい子育てを共有する時間ととらえ、お互いに幸せを感じる時間にしたい」「毎回子どものことをかわいいと言ってくれるので、こんなかわいい子を育てているんだぞと自己肯定感があがった」「地域の情報を教えてもらえるのがとてもうれしい」「地域のイベントや子育ての情報をいろいろもらったのはよかった

た。役に立った」等の声が聴かれた。今回のモデル事業で地域住民である「ご近所さん」の力が子育て家庭の力になることがわかってきた。「ご近所さん」に象徴される地域の力と行政機関の専門性の力とそれぞれの強みを活かしながら、緊密な連携に基づく事業展開が求められているのではないだろうか。そのような連携・協働があつてこそ、子育ての孤立を防止する予防的支援と支えあいの地域づくりとを総合的かつ効果的に展開していくことが可能となる。

地域住民(「ご近所さん」とそれを支援しコーディネートする組織である社協と行政機関を中心とした専門機関が、ともに「こどもまんなか」という目標に向かってこそ、一人ひとりのこどもの笑顔あふれる地域になると確信する。

そしてその地域社会は、誰もが豊かに暮らせる地域社会である。

〈参考・引用文献〉

花野典子(2000)「子ども虐待を生んだ家族の要因と看護の役割」『宮崎県立看護大学研究紀要』1(2),66-72.

石田光規(2021)「子育て期にある母親の居場所としての NPO の可能性」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』66,115-130

大川聡子(2015)「若年母親グループにおける住民ボランティアの子育て支援—ボランティアが持つ若年母親への認識の変化に着目して」『大阪府立大学看護学部紀要』21(1),49-56.

笹川宏樹(2019)「児童虐待の現状とリスク要因」『心理臨床科学』9(1),31-8.

佐藤拓代(2018)「子育て世代包括支援センターとネウボラの理念」『大阪市立大学看護学雑誌』14,36-9.

鈴木昭(2019)「子ども虐待防止に有効な施策と支援は何か—社会指標と自治体死亡事例検証の分析から—」『科学研究費助成事業 研究成果報告書』

谷野宏美・鈴井江三子(2014)「我が国における児童虐待の現状—学童保育施設の役割と課題—」『新見公立大学紀要』35,1-5.

浦山晶美(2017)「子育て支援に関する文献検討と母親への支援の課題」『山口県立大学学術情報〔看護栄養学部紀要〕』10,39-45.

財団法人こども未来財団(2007)『平成18年度 子育てに関する意識調査報告書』

〈インターネット資料〉

「こども大綱」(2023(令和5)年12月22日閣議決定)

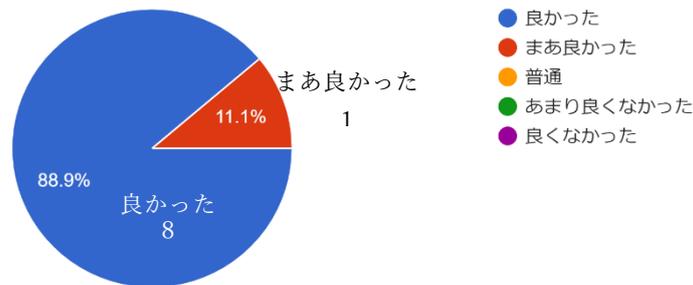
(https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/f3e5eca9-5081-4bc9-8d64-e7a61d8903d0/276f4f2c/20231222_policies_kodomo-taikou_21.pdf)

2024年3月13日閲覧.

令和 5 年度 第 2 回ご近所さん交流会 2023.11.19 開催 ～ご近所さんキッチンカフェ～アンケート結果集

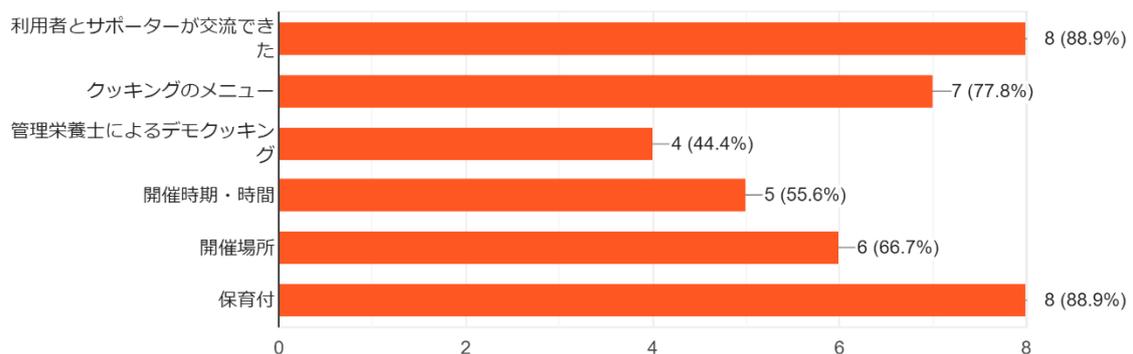
1. 「ご近所さんキッチンカフェ」に参加して良かったと思いますか。

9 件の回答



2. 今日の交流会で良かったことは何ですか。（複数回答可）

9 件の回答



3. 今回の交流会に参加して、これからの交流会に望むことを自由にお書き下さい。

7 件の回答

- ・お母さんと交流後、話していたのはどのお子さんかわからないまま解散だったので保育のお迎え後、是非親子で交流できる時間があれば良いな、と思いました。
- ・他のテーブルの方と全く話せなかったので（1階ロビーで立ち話程度）、みんなで悩み事やゆっくり自己紹介できる時間があれば嬉しかったです
- ・利用者とサポーターの交流(対話)の時間がもう少し多くとれたら良かったかなと思いました
- ・日程は、気候も含め時間共に設定は良かった。保育付きはママ達の参加を呼びやすい。保育する部屋については、清潔面など要配慮。特に低月齢児には睡眠の確保も含め

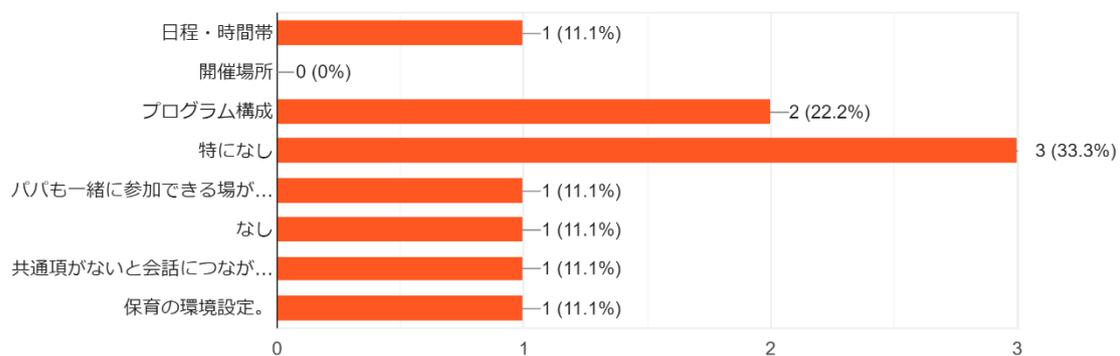
マットなどの用意があれば対応可。はせさんずの方々共に短時間ながらも調整しあい良かった。参加のママ達も楽しそうで良かったので、次回に期待大ですね。

- ・今回のような簡単なメニューを紹介して下さると嬉しいです。
- ・ほどよい人数で楽しくお話しして交流することができました。もっと参加人数が増えたら席替えをするなどして、いろいろな人と話せたらいいと思います。
- ・利用者同士などの横のつながりができて良かったので、このような機会を増やしていただきたいです。

4.

今後、改善した方が良くと思われる項目などがあ...またそれはどのようなものであれば良いですか。

9件の回答



5.

今後、利用者・サポーター交流会を行うとしたらどのような内容だと良いですか。（複数回答可）

9件の回答



6. 今後もご近所さん利用者・サポーター交流会があれば、参加したいと思いますか。

9件の回答



7. 本日の交流会について、ご意見・ご感想・ご質問等がありましたら、ご自由にお書き下さい。8件の回答

・親の交流メインだったので、料理の下ごしらえもほとんどしてくださりちょうど会話がしやすく良かったです。おやつも簡単ですぐ実践してみました。1時間でも子供のことを忘れて会話や料理に夢中になってしまい、良いリフレッシュになりました！保育付はとても助かり、将来の保育園入園に向けて、集団保育のいい経験になったと思います。楽しい企画をありがとうございました、また次回も参加したいです。

・とても楽しくて、あっという間に終わりました！心身ともにリフレッシュできたので、充実した時間を過ごせました。このような機会をつくっていただき本当にありがとうございました！！

・良い気分転換になりました。保育もしていただき、とてもありがたかったです。ありがとうございました。

・子供がいない中で教えていただける貴重な機会だったので、栄養士の先生に質問する時間を設けていただけたら嬉しかったです。リフレッシュになりました。ありがとうございました。

・企画、準備など色々ご配慮頂き、ありがとうございました。赤ちゃんとママ、パパ達、サポーターとの交流を通して楽しい育児に繋げていけたらいいですね。お世話になりました。感謝

・手を動かしながら他の参加者と話ができて良かったです。保育付きで、自分だけの時間を過ごせました。話が盛り上がりまだまだ時間が足りないくらい、あっという間の時間でした。

・準備や片付け、調理など運営側の皆さんにたくさんやっていただき、申し訳ないくらいでした。おかげさまで楽しく気楽に参加できました。貴重な機会をありがとうございました！

・初めての取り組みとお聞きしましたが、とても良い取り組みだなと思いました。保育付きで気兼ねなく参加できたのもとても良かったです。ありがとうございました。

別紙 2-1

□A調査（利用開始前アンケート）

No.	質問	回答
1	あなたの回答用 ID を教えてください。	
2	あなたの現在の年齢を教えてください。	_____ 歳
3	お子さんの月齢を教えてください。	_____ か月
4	現在、同居されている方をすべて教えてください。 (事業対象の 0 歳のお子さんを除く) (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 夫 (又はパートナー) <input type="checkbox"/> こども <input type="checkbox"/> あなたの父 <input type="checkbox"/> あなたの母 <input type="checkbox"/> 夫 (又はパートナー) の父 <input type="checkbox"/> 夫 (又はパートナー) の母 <input type="checkbox"/> 単身 <input type="checkbox"/> その他 ()
4-2	「こども」と答えた方にお尋ねします。 →お子さんの人数と年齢を教えてください。 (事業対象の 0 歳のお子さんを除く)	() 人 () 歳
5	「ご近所さん」を利用しようと思った理由を教えてください。 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 人に勧められたから <input type="checkbox"/> ご近所づきあいを深めたい <input type="checkbox"/> 子どもの顔見知りを増やしたいから <input type="checkbox"/> 定期的に人に会えるから <input type="checkbox"/> 相談先ができるから <input type="checkbox"/> 子育て支援グッズがもらえるから <input type="checkbox"/> その他 ()
6	現在、所得を伴うお仕事をしていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> 産休・育休中 <input type="checkbox"/> いいえ
6-2	そのお仕事の日数・時間帯（通勤時間含む）を教えてください。	<input type="checkbox"/> 週に () 日 <input type="checkbox"/> () 時～ () 時
6-3	お仕事中的お子さんの世話は主にどなたが担っていますか	<input type="checkbox"/> 自分自身 <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園 <input type="checkbox"/> 同居の家族 <input type="checkbox"/> 別居の家族 <input type="checkbox"/> その他 ()

7	<p>現在の心身の健康状態はいかがですか。</p> <p>《通年比較》</p>	<input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> まあよい <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よくない
8	<p>子育てをされていて楽しいですか。</p> <p>《通年比較》</p>	<input type="checkbox"/> 楽しい <input type="checkbox"/> すこし楽しい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり楽しくない <input type="checkbox"/> 楽しくない
9	<p>子育てをされていて、孤立感・孤独感を感じますか。</p> <p>《通年比較》</p>	<input type="checkbox"/> 感じる <input type="checkbox"/> すこし感じる <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり感じない <input type="checkbox"/> 感じない
10	<p>子育てに関する情報はどこで入手していますか。</p> <p>(複数回答可)</p> <p>《通年比較》</p>	<input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 大田区子育てハンドブック <input type="checkbox"/> 保育園・児童館 <input type="checkbox"/> 大田区子育て応援メール <input type="checkbox"/> 子育て雑誌 <input type="checkbox"/> その他 ()
11	<p>次の施設やサービスで、利用予定のものがありますか。</p> <p>(複数回答可)</p> <p>《通年比較》</p>	<input type="checkbox"/> 保育園 <input type="checkbox"/> 児童館 <input type="checkbox"/> 子育て広場 <input type="checkbox"/> にこにこサポート・びよびよサポート <input type="checkbox"/> 絆サポート (産前産後の家事支援) <input type="checkbox"/> シルバー人材センターの家事支 <input type="checkbox"/> ベビーシッター <input type="checkbox"/> 地域の育児イベント <input type="checkbox"/> 地域の子育てサークル <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 利用したサービスはない
12	<p>例えばあなたが用事で外出する際、お子さんを短時間世話してくれるなど、ちょっとした手助けを必要としている時に頼れる人は何人いますか。</p> <p>《前後比較》</p>	<input type="checkbox"/> 0人 <input type="checkbox"/> 1～2人 <input type="checkbox"/> 3～4人 <input type="checkbox"/> 5～6人 <input type="checkbox"/> 7人以上

12-2	<p>あなたの気分がすぐれないときに、愚痴を聞いてくれる人は何人いますか。</p> <p>《前後比較》</p>	<input type="checkbox"/> 0人 <input type="checkbox"/> 1～2人 <input type="checkbox"/> 3～4人 <input type="checkbox"/> 5～6人 <input type="checkbox"/> 7人以上
13	<p>さしつかえなければあなたのご世帯の年収を教えてください。</p>	<input type="checkbox"/> 200万円未満 <input type="checkbox"/> 200万円～399万円 <input type="checkbox"/> 400万円～699万円 <input type="checkbox"/> 700万円～999万円 <input type="checkbox"/> 1000万円以上
13-2	<p>現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。</p>	<input type="checkbox"/> たいへん苦しい <input type="checkbox"/> やや苦しい <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> ややゆとりがある <input type="checkbox"/> たいへんゆとりがある

		<input type="checkbox"/> 利用しているものはない
8	ご近所サポーターに満足していますか。 ≪通年比較≫	<input type="checkbox"/> 満足している。 <input type="checkbox"/> すこし満足している。 <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまり満足していない <input type="checkbox"/> 満足していない
9	ご近所サポーターには、ご自身の悩みを相談しますか。 ≪通年比較≫	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
9-2	「いいえ」と答えた方にお伺いします。 →それはどのような理由からですか。(複数回答可) (なお、このアンケートをご近所サポーターが目にするこ とはありません。) ≪通年比較≫	<input type="checkbox"/> 相談したいことがない <input type="checkbox"/> ご近所さんサポーターの方とは 相談する間柄ではない <input type="checkbox"/> 他の人に相談している <input type="checkbox"/> 話しづらい <input type="checkbox"/> その他 ()

別紙 2-3

□C 調査 (利用終了時アンケート)

No.	質問	回答
1	あなたの回答用 ID を教えてください。	
2	現在の心身の健康状態はいかがですか。 《通年比較》	<input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> まあよい <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よくない
3	子育てをされていて楽しいですか。 《通年比較》	<input type="checkbox"/> 楽しい <input type="checkbox"/> すこし楽しい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり楽しくない <input type="checkbox"/> 楽しくない
4	子育てをされていて、孤立感・孤独感を感じますか。 《通年比較》	<input type="checkbox"/> 感じる <input type="checkbox"/> すこし感じる <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり感じない <input type="checkbox"/> 感じない
5	子育てに関する情報はどこで入手していますか。 (複数回答可) 《通年比較》	<input type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> 友人 <input type="checkbox"/> 大田区子育てハンドブック <input type="checkbox"/> 保育園 <input type="checkbox"/> 大田区子育て応援メール <input type="checkbox"/> 子育て雑誌 <input type="checkbox"/> その他 ()
6	次の施設やサービスで、これまでに利用されたものはありますか。(複数回答可) 《通年比較》	<input type="checkbox"/> 保育園 <input type="checkbox"/> 児童館 <input type="checkbox"/> 子育て広場 <input type="checkbox"/> にこにこサポート・ぴよぴよサポート <input type="checkbox"/> 絆サポート (産前産後の家事支援) <input type="checkbox"/> シルバー人材センターの家事支援 <input type="checkbox"/> ベビーシッター <input type="checkbox"/> 地域の育児イベント <input type="checkbox"/> 地域の子育てサークル <input type="checkbox"/> その他 () <input type="checkbox"/> 利用したものはなし
7	例えばあなたが用事で外出する際、お子さんを短時間世話してくれるなど、ちょっとした手助けを必要としている時に頼れる人は何人いますか。	<input type="checkbox"/> 0人 <input type="checkbox"/> 1～2人 <input type="checkbox"/> 3～4人

	<p>《前後比較》</p>	<input type="checkbox"/> 5～6人 <input type="checkbox"/> 7人以上
7-2	<p>あなたの気分がすぐれないときに、愚痴を聞いてくれる人は何人いますか。</p> <p>《前後比較》</p>	<input type="checkbox"/> 0人 <input type="checkbox"/> 1～2人 <input type="checkbox"/> 3～4人 <input type="checkbox"/> 5～6人 <input type="checkbox"/> 7人以上
8	<p>現在の、ご近所サポーターに満足していますか。</p> <p>《通年比較》</p>	<input type="checkbox"/> 満足している。 <input type="checkbox"/> すこし満足している。 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> あまり満足していない <input type="checkbox"/> 満足していない
8-2	<p>「満足している」「すこし満足している」と答えた方 →それはどのような点からですか。</p>	(自由記載)
9	<p>ご近所サポーターには、ご自身の悩みを相談しましたか。《通年比較》</p>	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
9-2	<p>「はい」と答えた方 →今回ご紹介したご近所づきあいを続けていこうと思えますか。</p>	<input type="checkbox"/> 続けていく <input type="checkbox"/> できれば続けたい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり続けたくない <input type="checkbox"/> 続けたくない
9-3	<p>「いいえ」と答えた方にお尋ねします。 →それはどのような理由からですか。(複数回答可) (なお、このアンケートをご近所サポーターが目にすることはありません。)</p> <p>《通年比較》</p>	<input type="checkbox"/> 相談したいことがない <input type="checkbox"/> ご近所さんサポーターの方とは相談する間柄ではない <input type="checkbox"/> 他の人に相談している <input type="checkbox"/> 話しづらい <input type="checkbox"/> その他 ()
10	<p>「ご近所さん」をお子さまが満1歳になるまでご利用されましたか。</p>	<input type="checkbox"/> 利用した <input type="checkbox"/> 利用しなかった
10-2	<p>「利用しなかった」と答えた方にお尋ねします。 →それはなぜですか。</p>	<input type="checkbox"/> 訪問回数が多かった <input type="checkbox"/> 訪問回数が少なかった <input type="checkbox"/> 訪問の時間帯が合わなかった <input type="checkbox"/> 子育て支援グッズに魅力がなかった <input type="checkbox"/> その他 ()
11	<p>ご近所さんサポーターの訪問回数について、あなたが適切と思う回数はどのくらいですか。</p>	<input type="checkbox"/> 週1回 <input type="checkbox"/> 月2回 <input type="checkbox"/> 月1回 <input type="checkbox"/> 2か月に1回 <input type="checkbox"/> その他 ()
12	<p>ご自身の悩みを相談できる相手として、どのような年代の</p>	<input type="checkbox"/> 同年代よりやや下

	方がふさわしいと感じますか。	<input type="checkbox"/> 同年代 <input type="checkbox"/> 同年代よりやや上 <input type="checkbox"/> 親世代 <input type="checkbox"/> 祖父母世代 <input type="checkbox"/> 年代にこだわりはない
13	ご近所さん事業を利用したご意見・ご感想を教えてください。	(自由記述)
14	今後2次調査として聞き取り調査(1時間程度のインタビュー)を実施する場合、ご協力いただけますか。	<input type="checkbox"/> 協力できる。 <input type="checkbox"/> 協力することは難しい。

別紙 2-4

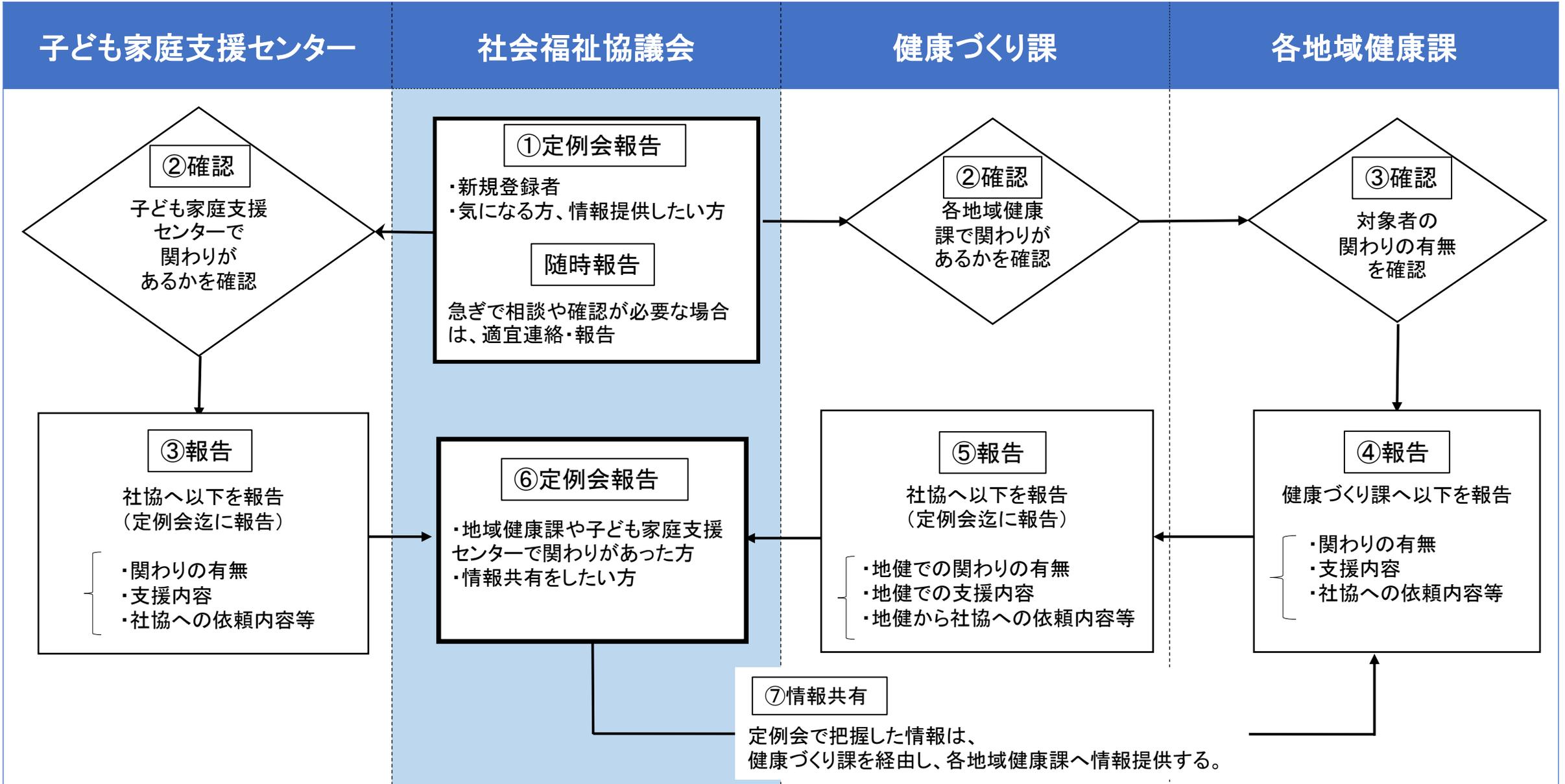
□D調査（利用終了1年後アンケート）

No.	質問	回答
1	あなたの回答用 ID を教えてください。	
2	ご近所さんサポーターと、利用後も連絡を取り合っていますか。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2-2	「はい」と答えた方へお尋ねします。 →ご近所さんとのやり取りはどのような形でしていますか。 (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 直接会う <input type="checkbox"/> LINE <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> 電話 <input type="checkbox"/> その他 ()
2-3	「はい」と答えた方へお尋ねします。 →どのぐらいの頻度で連絡を取り合っていますか。	<input type="checkbox"/> 週2～3回程度 <input type="checkbox"/> 週1回程度 <input type="checkbox"/> 1か月に1～2回程度 <input type="checkbox"/> 2～3か月に1回程度 <input type="checkbox"/> その他 ()
3	ご近所さんとのつながりができてよかったと思いますか。	<input type="checkbox"/> よかった <input type="checkbox"/> すこしよかった <input type="checkbox"/> どちらともいえない <input type="checkbox"/> あまりよくなかった <input type="checkbox"/> よくなかった
3-2	「あまりよくなかった」「よくなかった」と答えた方にお尋ねします。 →それはなぜですか。(複数回答可) (なお、このアンケートをご近所サポーターが目にすることはありません。)	<input type="checkbox"/> 相談したいことがない <input type="checkbox"/> ご近所さんサポーターの方とは打ち解けて話をする間柄でない <input type="checkbox"/> 他の人に相談している <input type="checkbox"/> 話しづらい <input type="checkbox"/> その他 ()
4	現在の心身の健康状態はいかがですか。 《通年比較》	<input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> まあよい <input type="checkbox"/> ふつう <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よくない
5	子育てをされていて楽しいですか。 (複数回答可) 《通年比較》	<input type="checkbox"/> 楽しい <input type="checkbox"/> すこし楽しい <input type="checkbox"/> どちらでもない <input type="checkbox"/> あまり楽しくない <input type="checkbox"/> 楽しくない
6	子育てをされていて、孤立感・孤独感を感じますか。 《通年比較》	<input type="checkbox"/> 感じる <input type="checkbox"/> すこし感じる <input type="checkbox"/> どちらでもない

		<input type="checkbox"/> あまり感じない <input type="checkbox"/> 感じない
--	--	---

7	<p>例えばあなたが用事で外出する際、お子さんを短時間世話してくれるなど、ちょっとした手助けを必要としている時に頼れる人は何人いますか。</p> <p>《前後比較》</p>	<input type="checkbox"/> 0人 <input type="checkbox"/> 1～2人 <input type="checkbox"/> 3～4人 <input type="checkbox"/> 5～6人 <input type="checkbox"/> 7人以上
7 - 2	<p>あなたの気分がすぐれないときに、愚痴を聞いてくれる人は何人いますか。</p> <p>《前後比較》</p>	<input type="checkbox"/> 0人 <input type="checkbox"/> 1～2人 <input type="checkbox"/> 3～4人 <input type="checkbox"/> 5～6人 <input type="checkbox"/> 7人以上

ご近所さん事業 関係機関支援フロー



ご近所さん事業 利用者名簿

	ID	名前	ふりがな	地区	住所	その他
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						

ご近所さん事業 説明動画 (サポーターさん向け)



大田区社会福祉協議会
おおた地域共生ボランティアセンター
2022. 5. 25

※この事業は、東京都と大田区のモデル事業です。



■活動内容

0歳児を育てるご家庭に、月1回、子育て支援グッズや地域の子育て情報をお届けします。また、玄関先でお母さんとお話しをします。訪問活動を通じて、子育て世代の身近な存在になってもらう活動です。

■訪問時間

月曜日～土曜日 9時～19時

※1回あたりの訪問時間は、5分～10分程度です。

※お母さん宅へはあがりません。

※訪問回数は、1世帯あたり、月1回程度です。



■対象者

0歳児(令和4年3月生～令和5年3月生)を育てているご家庭

- お子さんが1歳のお誕生日で終了

■対象地域

- 嶺町特別出張所管内
- 大森東特別出張所管内

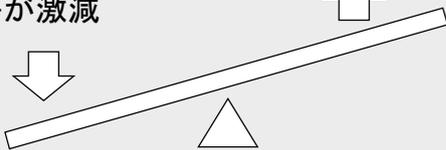


■産後のお母さんの身体と心の変化

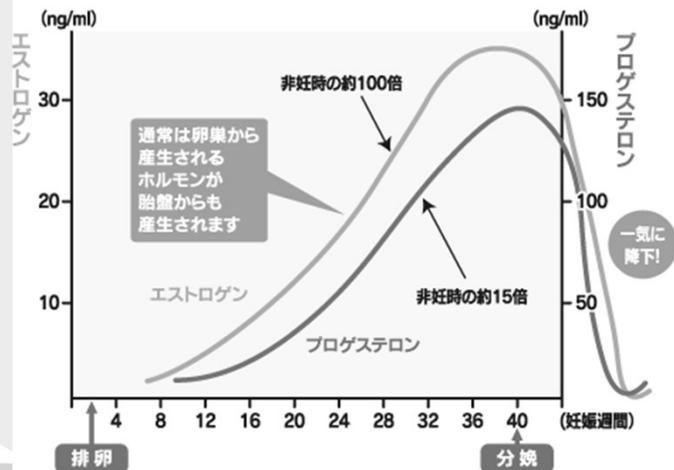
エストロゲン
等が激減



不安や孤独感
が増える



妊娠中および産後の血中女性ホルモンの変動



提供: 東京医科歯科大学医学部附属病院マタニティクラス

■「孤育て」から「みんなで子育て」へ

お母さんひとりで、子育てはできない。

完璧なお母さんは、誰もいない。

お母さんの気持ちに寄り添う支援を。

子育て経験のある先輩たち



■ご近所さんサポーターの登録

ご近所さんサポーターLINEから、登録してください。

こちらから入れます。⇒



■お母さんにご近所さんサポーターのマッチング

お母さんにご近所さんサポーターのマッチングは、社協が行います。

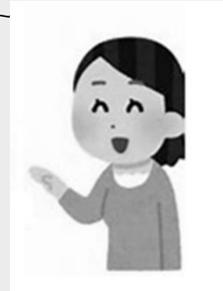


お母さん

マッチング



社協



ご近所さん
サポーター

■マッチングが成立すると

◎社協から

- 訪問日時
- お母さん宅の住所
- お名前

などがLINEで送られてきます。

◎訪問日時までに、提供品保管場所(嶺町特別出張所か大森東特別出張所)に、品物を取りに行ってください。

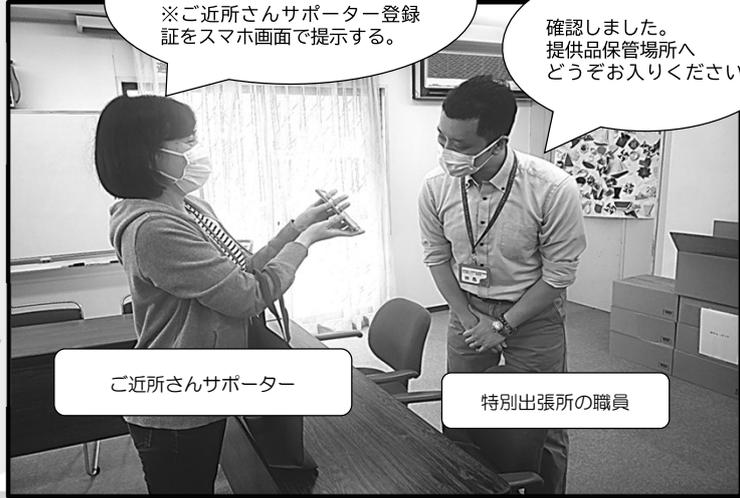
※特別出張所の開所時間は、8時30分～17時まで(土日、祝日及び年末年始を除く)になりますので、ご注意ください。

社協からLINEが来た。○月△日◇時に訪問ね。了解!



ご近所さんサポーター

■ 特別出張所の窓口で



■ ご近所さんサポーター登録証 ※イメージ図



マッチングが成立したら、
社協から
『ご近所さんサポーター登録証』
がLINEで送られてきます。

■ 提供品保管場所で

今回の提供品は
〇〇と△△にしよう！



地域の子育て情報
(チラシ)も、エコ
バックに入れて。



◎提供品の組み合わせ(例)

- A) おしりふき3個組
- B) 化粧品(お母さんのための)+紙おむつ(1枚入り)
- C) 離乳食1個+紙おむつ(1枚入り)
- D) おもちゃ1個

地域の子育て情報
(チラシ)



＝お願い＝

お届けした提供品は、訪問後にLINEで
社協まで報告してください。

※保管場所に組み合わせ(例)を明記しておきますので、
サポーターさんご自身で選んでお持ちください。

■ 特別出張所からお母さん宅へ移動



◎自転車で移動の場合

- 自転車は周囲の迷惑にならない
場所におきましょう。
- 事前に自転車置き場の指定が
あった場合は、社協からサポ
ーターさんにご連絡いたします。
- 雨の日などは、気を付けて移動し
てください。

■お母さん宅で、提供品や子育て情報(チラシ)などをお渡しして、お話しをします。



■訪問後は

◎訪問記録フォームを社協まで
送信してください。

※訪問記録フォームは、LINEで、
社協よりお送りします。

A screenshot of a mobile application form titled "ご近所さん訪問記録フォーム" (Neighborhood Visit Record Form). The form has a header with the title and a sub-header "フォームの説明" (Form Description). Below the header, there is a field for "ご近所さんサポーター名" (Neighborhood Supporter Name) with a dropdown menu set to "記述式" (Text-based). Underneath is a "記述式テキスト (短文回答)" (Text-based text (short answer)) field. At the bottom, there is a checkbox for "解答集を作成 (0ポイント)" (Create answer collection (0 points)), which is checked. To the right of the checkbox are icons for a document, a trash can, and a toggle switch labeled "必須" (Required), which is turned on. The background of the form is a dark grey pattern of speech bubbles and icons.

■ 訪問した時



- 2回ぐらいは、インターホンを鳴らしてみましょう。
- 不在の場合は、提供品を持ってそのままお帰りください。
- その後、社協まで不在だったことを報告してください。
- お母さんと次回訪問日を調整して、LINEでまたご連絡いたします。

■ 訪問にあたって

- 毎月同じお母さんのお宅を訪問します。
- 活動を続けることが難しくなった場合は、遠慮なく社協までご相談ください。社協が他のご近所さんサポーターをマッチングする等の対応をします。
- 訪問当日、急に行けなくなった場合は、社協までお電話ください。社協より、お母さんへ連絡いたします。

(LINEだとすぐに確認ができないため、当日の訪問変更はお電話ください。)

■ご近所さん事業総合保険について

ご近所さん事業 総合保険



社協にて、ご近所さん事業総合保険に加入しています。

ご近所さん事業総合保険とは、

- ①活動中の事故により、サポーター本人がケガをした。
- ②サポーターの活動により、利用者に対して損害賠償問題が生じた。



①、②の場合を補償する保険です。

※サポーター自身が手続きをする必要はありません。

■お母さんとのコミュニケーションについて

- 子育ての常識は、時代によって違うものもあります。
- お母さんたちの子育て方法は、全て受け止めましょう。
- お母さんの心の安定が、赤ちゃんの笑顔につながります。
- 物品のあっ旋、販売、宗教・政治的な勧誘などはお控えください。



■個人情報やプライバシー保護について

- ボランティア活動を行う上で知り得た利用者に関する情報は、家族や友人、知人を含め、外部に漏らさないでください。
- スマートフォンにはパスワードを設定するなどし、送られてきた個人情報が漏れないように管理してください。
- 利用者に対する話題をSNSに投稿する、勝手に利用者の写真を撮影するなどの行為はおやめください。

■ご近所さんサポーター交流会

- 年4回程度、オンラインまたは対面形式で、ご近所さんサポーター交流会を開催します。可能であればご出席をお願いします。
- 活動して気づいたこと、感じたこと、課題等について、サポーターの皆さまと共有し、改善策を一緒に考えていきます。



■さいごに

- ご不明な点などがありましたら、ご近所さん担当:土方(ひじかた) 庵原(いはら)までLINEかお電話でお問い合わせください。
- お母さんが元気に子育てできるように、皆さまと一緒にお母さんに寄り添っていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

(ご近所さん担当:土方・庵原)



大田区社会福祉協議会
おおた地域共生ボランティアセンター

「ご近所さん事業」事業実施報告書

令和6年4月発行

【作成・編集】

大田区健康政策部健康づくり課

大田区こども家庭部子ども家庭支援センター

社会福祉法人 大田区社会福祉協議会

おおた地域共生ボランティアセンター